

増補 比較文化のコンセプト & 参考文献

1. 食の比較 (洋食・和食・ 田舎料理)

山口昌男「食・祝祭・文学」『國文學』1984年3月号、學燈社〕／ブリヤ＝サヴェラン『美味礼讃』岩波文庫／ロラン・バルト『味覚の生理学』を読む』みすず書房／ポール・フィールドハウス『食と栄養の文化人類学』中央法規／『イマーゴ』一食の心理学—1993年9月、青土社／『現代思想』一料理 食のエステティーク—1988年9月、青土社／『國文學』一食の文学博物誌—1984年3月号、學燈社／中野美代子『カーニバリズム論』福武文庫／石毛直道『食卓の文化史』岩波書店／『日本の食生活全集』農山漁村文化協会／『祝いの食文化』東京美術選書／ステイブン・メネル『食卓の歴史』中央公論社／『Is』一食—第14号、ポラ文化研究所／渡辺実『日本食生活史』吉川弘文館／小泉武夫『食に知恵あり』日本経済新聞社／長崎福三『肉食と文化と魚食文化』農文協／芳賀登・石川寛子編『全集 日本の食文化』全十四巻、雄山閣／成瀬宇平『現代魚食考』丸善ライブラリー／太場滋『食の文化史』中公新書／三宅眞『世界の魚食文化考』中公新書／柳田国男『食物と心臓』講談社学術文庫／鯖田豊之『肉食の思想』中公新書／『Is』一食卓のメタファー—28号、ポラ文化研究所／黄慧性・石毛直道『韓国の食』平凡社／石毛直道『論集 東アジアの食事文化』平凡社／山口米子『日本の東西「食」気質』三嶺書房／石毛直道『食事の文明論』中公新書／児玉定子『日本の食事様式』中公新書／近藤弘『日本人の求めたうま味』中公新書／石毛直道『食いしん坊の民族学』中公文庫／原田信男『歴史のなかの米と肉』平凡社／一島英治『万葉集にみる食の文化』叢華房／安達巖『日本食物文化の起源』自由国民社／金尙基『キムチとお新香—日韓比較文化』河出書房新社／石毛直道編『世界の食事文化』ドメス出版／同氏他編『ロスアンジェルスのレストラン その文化人類学的研究』ドメス出版／鄭大聲『食文化の中の日本と韓国』講談社現代新書／マーヴィン・ハリス『食と文化の謎—Good to eatの人類学』岩波書店／山内昶『「食」の歴史 比較文化論の地平』人文書院／佐々木道雄『朝鮮の食と文化』むくげ叢書／バーバラ・ウィートン『味覚の歴史 フランスの食文化—中世から革命まで—』大修館書店／周達生『中国の食文化』創元社／同『東アジアの食文化探検』三省堂選書

2. 観光文化の 起源

神崎宣武『物見遊山と日本人』講談社現代新書／中川浩一『観光の文化史』筑摩書房／ジョン・アーリ『観光のまなざし』法政大学出版局／内藤錦樹『大衆旅行時代』日経新書／山下晋司編『観光人類学』新曜社／水野潤一『観光学原論』東海大学出版会／川本三郎編『観光と乗物』モ

ダン都市文学V』平凡社／ピアーズ・ブレンドン『トマス・クック物語——近代ツーリズムの創始者』中央公論社／本城靖久『トーマス・クックの旅 近代ツーリズムの誕生』講談社現代新書／荒井政治『レジャーの社会経済史』東洋経済新報社／石森秀一他編『新しい旅の始まり』PHP研究所／同『新しい観光学の提唱』『中央公論』1992年7月号』／V・L・スミス編『観光・リゾート開発の人類学』勁草書房／『太陽』—日本聖地観光—1994年1月号／『北見大学論集』第37号、1997年

3. 道の比較

シュライバー『道の文化史 一つの交響曲』岩波書店／東京大学公開講座『道』東京大学出版会／『is』—道—第14号、ポーラ文化研究所／藤原武『ローマの道の物語』原書房／播磨荘一郎『日本の道 世界の道』毎日新聞社／北海道新聞社編『北海道道路53話』北海道新聞社／鶴見良行・村井吉敬編著『道のアジア史——モノ・ヒト・文化の交流』同文館／加藤宣利『白い道——高速道路物語』ぎょうせい／遠山富太郎『杉のきた道』中公新書／深田久弥『シルクロードの旅』朝日選書／岸井良衛『山陽道』中公新書／岸井良衛『東海道五十三次』同／藤原新也編『日本の名随筆90 道』作品社／司馬遼太郎『街道をゆく』1～40、朝日文庫／『日本再発見』1～2—道—NEC／富岡儀八『日本の塩道』古今書院／同『塩の道を探る』岩波新書／石黒寛『もう一つのシルクロード』東海大学出版会／陳良『シルクロード史話』恒文社／陳舜臣『シルクロードの旅』平凡社／同『シルクロード巡歴』日本放送出版協会／ジャン＝ピエール・ルゲ『中世の道』白水社／深田久弥・長澤和俊『シルクロード』白水社／長澤和俊『シルクロード文化史』全3巻、白水社／『シルクロード 絲綢之路』1～6、日本放送出版協会／『シルクロード ローマへの道』7～12、同／高村直助編『道と川の近代』山川出版／マクルーハン『メディア論』みすず書房／松岡正剛『花鳥風月の科学』淡交社／大洋和俊『旅・道・寺社——枕草子の〈言葉〉』『物語とメディア 新 物語研究 1』有精堂』／鶴見良行『海道の社会史』朝日選書／鳴海邦碩『都市の自由空間——道の生活史から』／相良亨『日本の『道』』『文学』1987年8月号』／國分直一『北の道 南の道 日本文化と海上の道』第一書房／廣川勝美他『塩の道』創世記／戸田芳実『歴史と古道 歩いて学ぶ中世史』人文書院／平島裕正『塩の道』講談社現代新書／山田宗睦『中山道——謡坂・舞台峠・御殿山』『文学』1986年12月号』／宮本常一『塩の道』『日本民衆史 2 山に生きる人びと』未来社／戸田芳実『歴史と古道 歩いて学ぶ中世史』人文書院)

4. 旅の比較

(成人式の旅・
ワンダリング)

山口昌男・中村雄二郎『知の旅への誘い』岩波新書／エリック・リード『旅の思想史』法政大学出版局／シヴェルプシュ『鉄道旅行の歴史』法政大学出版局／オーラー『中世の旅』法政大学出版局／『日本の美学』—旅—創刊号、ペリかん社／『伝統と現代』—旅—11号、伝統と現代社／

『日本交通公社七十年史』／古橋信孝他編『旅と異郷 古代文学講座5』勉誠社／宮本常一編著『旅の発見 旅の民俗と歴史3』八坂書房／和歌森太郎『日本人の旅』〔『和歌森太郎著作集14』弘文堂〕／神崎宣武『観光民俗学への旅』河出書房新社／山本明『戦後旅行史』佐藤典子他『修学旅行の変遷』〔『風俗社会学』世界思想社〕／『國文學』—旅 その心と表現—1973年7月号／『國文學』—旅の発見 異国のなかの日本人—1980年6月号／『ユリイカ』—旅行のフォークロア—1987年8月号、青土社／B・モーラン『現代のロマン—マイプラン・トラベル』〔『日本文化の記号学』東信堂〕／『現代思想』—漂泊と交通—1984年11月号、青土社／『大航海』—旅の歴史、大研究—No.4／高田公理『旅行文化の発展—人類史的視点から—』〔『井上俊編『現代文化を学ぶ』世界思想社〕／本城靖久『グランド・ツアー—良き時代の良き旅』中央公論社／石森秀三『旅から旅へ』〔『現代日本文化における伝統と変容6』ドメス出版〕／柳田国男『旅行の話』〔『定本柳田国男集』三〕／プルチョウ『旅の時空』〔『日本の文学』3〕／『文学』—旅の文学—1937年8月号／板坂耀子『江戸の旅と文学』ペリかん社／佐藤泰正編『文学における旅』笠間選書／『ちくま文学の森13 旅ゆけば物語』筑摩書房／石森秀三編『二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容3 観光の二〇世紀』ドメス出版／『言語生活』—海外への旅—1980年8月号／『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 件名編 4』／桜井徳太郎・北見俊夫『日本の民俗 4 人間の交流』河出書房新社／篠原徹『『男はつらいよ』寅次郎の旅の人生—漂泊と定住の民俗学的断章—』〔新谷尚紀『寅さんの民俗学』海鳴社〕

5. ホテル・宿の比較

宮本常一『にっぽんのやど』社会思想社／廣瀬昭三『ホテルの変遷と二一世紀のホテル』〔生活文化研究所編著『遊びと日本人』啓文社〕／宮本常一編著『日本の宿 旅の民俗と歴史1』八坂書房／白田昭『イン イギリスの宿屋のはなし』駸々堂出版株式会社／村岡實『日本のホテル小史』中公新書／鈴木幸雄『ホテル大好き!!』泰流社／森敦編『日本の名随筆67 宿』作品社／長谷川嘉彦『ホテルを楽しむ本』同文館／三富克彦『ホテルマン日記』KKベストブックス／瀬沼克彰『宿泊施設への人々の要望』〔『余暇と地域文化創造』学文社〕／『太陽』—新感覚ホテル案内—1990年6月号／『太陽』—ホテルを楽しもう—1982年4月号／疋田正博『ホテルの文化史』〔『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版〕／ラウ・ハイゼ『亭主—酒場と旅館の文化史』白水社／『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 件名編4』／網野善彦『節経節の世界 中世社会の変化』〔『海と列島の中世』日本エディタースクール出版部〕

6. 川と川辺の比較

(折口信夫
「水の女」・
川口と遊女)

折口信夫「水の女」『折口信夫全集 2』中公文庫／鎌田東二「水の作法・水の祭祀」『異界のフォロロジー』河出書房新社／宮本常一編著『川の道 旅の民俗と歴史7』八坂書房／『世界の伝説8 川』ぎょうせい／柳田国男「川」『定本柳田国男集』2 筑摩書房／若尾五雄「トドロキ川」『河童の荒魂』堺屋図書／加藤廸『都市が滅びた川』中公新書／森誠一『トゲウオのいる川』中公新書／富山和子『川は生きている』講談社／小出博『日本の河川 自然史と社会史』東京大学出版会／久保田淳『隅田川の文学』岩波新書／夢枕漢他『川からの贈り物』東京書籍／良知力『青きドナウの乱痴気』平凡社／高村直助編『道と川の近代』山川出版／安芸皎一『世界の川に想う 世界の河川』古今書院／猿谷要『ミシシッピ川紀行』文藝春秋／鯖田豊之『ラインの文化史』刀水書房／若井宏實「大和川をめぐる地域文化」他『国立歴史民俗博物館研究報告』第67集／櫻井満『古代の山河と伝承』おうふう／安藤徹「橋・峠・川・水——空間を繋ぐ——」『物語とメディア 新 物語研究 1』有精堂／『日本の自然 3 日本の川』岩波書店／★『地球・自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／畠中武文『河川と人間』古今書院／梅原猛他『未来の川のほとりにて 吉野川メッセージ』山と溪谷社／梅原猛他『川の思想』同／阿部謹也他『中世の風景』上、中公新書／井上鋭夫『山の民・川の民』平凡社選書／北見俊一『川の文化』日本書籍／笹本駿二『ローヌ河歴史紀行』岩波新書／同『ライン河物語』同／吾郷慶一『ライン河紀行』同／加藤雅彦『ドナウ河紀行』同／ユゴー『ライン河幻想紀行』岩波文庫／ガヴィン・ウェイトマン『テムズ河物語』東洋書林

7. 笑いの比較

山口昌男「笑いの人類学」『仕掛けとしての文化』青土社／同「笑いのルーツ」『気配の時代』筑摩書房／同「笑いについて」『笑いと逸脱』筑摩書房／対談・山口昌男vs 養老孟司「人はなぜ笑うのか?」『imago』一特集・笑い—1995年3月、青土社／山口昌男「硬直した知の武装解除の方法」『反構造としての笑い』NTT出版／対談・山口昌男vs 荻野アツナ「反構造としての笑い」上同／山口昌男『笑いの記号学』紀行『へるめす』1987年13号／中川米造「日本人の笑い」〔生活文化研究所編著『遊びと日本人』啓文社〕／『日本の美学』一笑—第20号、ペリかん社／ベルクソン『笑い』岩波文庫／織田正吉『笑いとユーモア』ちくま文庫／塚崎進『笑いの誕生』社会思想社／井上宏『笑いの人間関係』講談社現代新書／西村清和・松枝到『笑う人間／笑いの現在』ポーラ文化研究所／シャルル・モーロン『喜劇のプシコクリティックス』国文社／飯島吉晴『笑いと異装』海鳴社／柳田国男『笑の本願』「笑の文学の起源」『定本柳田国男集』7、筑摩書房／飯沢匡『コメディの復讐』青土社／扇田昭彦『世界は喜劇に傾斜する』沖積社／山藤章二『対談「笑い」の混沌』講談社／同『対談「笑い」の構造』同／同『対談

「笑い」の解体』同／桂米朝編『日本の名随筆22 笑』作品社／原岡文子「笑う——『源氏物語』の『人笑へ』をめぐる——」『物語とメディア 新 物語研究1』有精堂／『明治大学公開講座V 笑い』風間書房／長谷川竜生「泣きと笑いを支えるもの」『文学』1960年12月号／足立巻一「大阪道化の笑い」〔前出同〕／『文学』—今日の笑い—1958年1月号／『文学』—笑い—1953年8月号／『文学』—笑の文学—1938年8月号／『新・ちくま文学の森13 世界は笑う』筑摩書房／ジャン・デュヴ・ニュー『笑いのたくらみ』東海大学出版会／『言語生活』—笑い—1979年1月号／足立和浩「笑い論のためのメモランダム」『現代思想』1984年2月号～1985年7月号／『言語生活』—落語—1982年12月号／亀井勝一郎・臼井吉見編『人生の本7 ユーモアのすすめ』文藝春秋／正高信男「笑いと人間」『岩波講座文化人類学1 新たな人間の発見』岩波書店／中村雅昭『落語の言語学』平凡社選書／同『落語のレトリック』同／イーニッド・ウェルズ・フォード『道化』晶文社／夏目房之介「笑いの作法」『情報文化問題集』NTT出版／松枝到編『ユーモアと笑いの至福 東洋文庫ふしぎの国7』平凡社★この一冊の巻末の自社広告に各種笑い話の原典が載っている／林達夫「上品な笑い 健康な笑い」『林達夫著作集6』平凡社／レナード・ファインバーグ『ユーモアの秘密』文化書房博文社／『本田安次著作集10』錦正社／祖父江孝男「エスキモーの笑い〈人間関係の考察〉」〔梅棹忠夫編『民族学の旅』講談社〕／鶴見俊輔『アメノウズメ伝 神話からのびてくる道』平凡社／宮田光雄『キリスト教と笑い』岩波新書／梅原猛『笑いの構造』角川選書／『知っているつもり?! 6 笑いに生きた達人たち』日本テレビ

8. 音と雑音 (人工音と 自然音)

山口昌男「音と新しい都市文化」『へるめす』1987年10号／同「音の想像力」『自然と文明の想像力』宝島社／同「記号と境界」『文化と両義性』岩波書店／『日本の美学』—音—第3号、ベリかん社／佐野清彦『音の文化誌—東西比較文化考』雄山閣／中川真『平安京 音の宇宙』平凡社／スティーブン・フェルド『鳥になった少年』平凡社／村山貞也『人はなぜ音にこだわるか』KKベストセラー／東靖晋『境界の音楽界の喧騒』『えとのす』第32号、新日本教育図書／山田野理夫『日本音紀行—その民俗学—』朝文社／秋田昌美『ノイズ・ウォー』青弓社／『is』—音—ポラ文化研究所／『現代思想』—都市のグラマトロジー—1975年10月号／中川真『平安京音の宇宙』平凡社／佐野清彦『音の文化誌 東西比較文化考』雄山閣／吉村弘「都市と音」〔櫻井哲男編『二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容1』ドメス出版〕／ジャック・アタリ『ノイズ 音楽／貨幣／雑音』みすず書房

9. 木と文化

橋本鉄男『木地屋の民俗』岩崎美術社／須藤護『暮らしの中の木器』ぎょうせい／フレイザー『金枝篇』1) 2) 岩波文庫／橋本鉄男『ろくろ』法

政大学出版局／札幌学院大学人文学部編『北海道・森と木の文化』札幌学院大学／荒俣宏『木精狩り』文藝春秋／永瀬嘉平『百木巡礼 巨樹に魅せられて』佼成出版社／同『神の木と会う』神無書房／林以一『木を読む』小学館／読売新聞社編『新 日本名木100選』読売新聞社／岸本定吉『炭の神秘』DHC／高嶋雄三郎『松』法政大学出版局／筒井廸夫『山と木と日本人』朝日新聞社／同『木と森の文化史』同／『明石の木と森』地球社／北海道編『北海道山林史』北海道／満久崇磨『木のはなし』思文閣出版／同『続木のはなし』同／室田武『雑木林の経済学』樹心社／岩井宏實他『民具が語る日本文化』河出書房新社／若尾五雄『河童と木地屋』『河童と荒魂』堺屋図書／全国燃料会館編『木炭の文化史』東出版／同『日本木炭史』全国燃料会館／炭やきの会『環境を守る炭と木酢液』家の光協会／水原二郎『日本人と米の文化』朝日選書／中尾佐助『花と木の文化史』岩波新書／榎本冬一郎『木の国民俗考』本阿弥書店／橋本鉄男『漂泊の山民 木地屋の世界』白水社／渡辺弘之『樹木がはぐくんだ食文化』研成社／ジャック・プスー・マサビュオー『家屋と日本文化』平凡社／篠原徹『海と山の民俗自然誌』吉川弘文館／有岡利幸『松——日本人の心と風景』人文書院／『太陽——木の文化——1984年4月号／大山昭子「木切れと遊ぶ」〔遊びと日本人〕啓文社〕／稲本正『木の聲』小学館／石村真一『桶・樽』I～III、法政大学出版局／『地球・自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／柳田国男「神樹篇」〔『定本柳田國男集』11、筑摩書房〕／樋口清之『木炭』法政大学出版局／大河直躬『番匠』同／西岡常一『木のいのち木のこころ 天』草思社／同『法隆寺を支えた木』NHK ブックス／同『木に学べ 法隆寺・薬師寺の美』小学館／廣川勝美『身体と樹木の宇宙誌』〔『文学』1988年2月号〕／『岩波美術館 木と草花』岩波書店／小川三夫『木のいのち木のこころ 地』草思社／塩野米松『木のいのち木のこころ 人』同／伊達興治『北海道の樹木と民族』北海道出版企画センター／善本知考『木のはなし』大月書房／宮本常一『日本民衆史 2 山に生きる人びと』未来社

10. 文字と文化

マクルーハン『ゲーテンベルグの銀河系』みすず書房／同『メディア論』同／『現代思想——文字と共同体——1993年10月号／オング『声の文化と文字の文化』藤原書店／グディ『未開と文化』岩波現代選書／阿辻哲次『漢字の文化史』NHK ブックス／白川静『文字遊心』平凡社／同『文字逍遙』同／紀田順一郎『日本語大博物館』ジャストシステム／同『日本語発掘図鑑』同／ホグベン『コミュニケーションの歴史』岩波文庫／上田正昭編『日本古代文化の探究 文字』社会思想社／岸俊男編『日本の古代14 ことばと文字』中央公論社／アルベルティーン・ガウアー『文字の歴史一起源から現代まで』原書房／加藤一朗『象形文字入門』中公新書／杉勇『楔形文字入門』同／西田龍雄『生きている象形文字』同／川田順造『無文字社会の歴史』岩波書店同時代ライブラリー／ムーアハ

ウス『文字の歴史』岩波新書／白川静『漢字 生い立ちとその背景』同／藤堂明保『漢字の話』上・下、朝日選書／樺島忠夫『日本の文字』岩波新書／藤枝見『文字の文化史』岩波書店同時代ライブラリー／ジョルジュ・ジャン『文字の歴史』創元社／『iichiko』—文字の文化学—1988年No.9／杉浦康平・前田愛『イメージと文字』『別冊國文學 知識の最前線 情報のパラダイム』1960年／関根賢司「文字・写本・書物—あるいは伊勢物語のエクリチュール—」『物語とメディア 新 物語研究1』有精堂／中村雄祐「文字という文化」『岩波講座文化人類学 第10巻 神話とメディア』岩波書店／樺島忠夫他編『事典 日本の文字』大修館書店／矢島文夫『文字学のたのしみ』同／西田龍雄『西夏文字の話』同／前田富祺編『国語文字史の研究』1、2、和泉書院／樺島忠夫他編『事典 日本の文字』大修館書店／『言語生活』—文字の科学—1985年7月号／『言語生活』—幼児が文字を知ったとき—1971年3月号／『言語生活』—文字の形—1974年5月号／『言語生活』—古代日本人と文字—1976年1月号／矢島文夫『解説—古代文字への挑戦』朝日新聞社／『ポボル・ウフ』中公文庫／西田龍雄編『世界の文字 講座言語5』大修館書店／阿辻哲次『図説漢字の歴史』大修館書店／『東京大学コレクションIII 歴史の文字—記載・活字・活版』東京大学総合研究博物館／竹村真一『明朝体の歴史』思文閣出版／矢作勝美『活字=表現・記録・伝達』出版ニュース社／高橋康雄『メディアの曙』日本経済新聞社／大輪盛登『ゲーテンベルクの髯』筑摩書房／コリン・レンフルー『ことばの考古学』青土社／河野六郎・西田龍雄『文字晶屑』三省堂／河野六郎『文字論』同／梅棹忠夫・小川了編『ことばの比較文明学』福武書店／クリストファー・ウォーカー『楔形文字』学藝書林／中西進・山本七平編『漢字文化を考える』大修館書店／高津春繁・関根正雄『古代文字の解説』岩波書店／チャドウィック『線文字Bの解説』みすず書房／トールホルファー『失われた文字の解説』I~III、山本書店／ステファヌ・ロッシニ『古代エジプト文字入門』河出書房新社／コンドラート『文字学の現在』筑摩書房／中西亮『世界の文字』みずうみ書房／山田俊雄他『シンポジウム日本語 4 日本語の文字』学生社／橋本進吉『文字及び仮名遣の研究』岩波書店／佐藤喜代治編『漢字講座』全12巻、明治書院

11. 飾り

『日本の美学』—かざり— 1992年18号、ペリかん社／『日本の美学』—デザイン— 14号、ペリかん社／千宗室監修『床と床かざり』淡交社／『日本の美術1 装身具』至文堂／『日本の美術29 文様』同／沼田頼輔『紋章の研究』創元社／海野弘『部屋の宇宙誌—インテリアの旅』TBSブリタニカ／清家清監修『インテリアデザイン辞典』朝倉書店／原研哉『ポスターを盗んでください』新潮社／田中一光『デザインの仕事机から』白水社／同『デザインの周辺』同／同『田中一光デザインの世界』

講談社／海野弘『世紀末の街角』中公新書／同『アール・デコの時代』
 美術公論社／小野二郎『紅茶を受血で』晶文社／同『ウィリアム・モリス』中公新書／『ユリイカ』—アール・デコ—1984年12月、青土社／
 『アール・ヌーボー／アール・デコ』1～4集、読売新聞社／海野弘『現代デザイン「デザインの世紀」をよむ』新曜社／『日本の美術23 結髪と髪飾』至文堂／ケレーニ『迷宮と神話』弘文堂／廣瀬辰五郎『日本結髪278種』主婦と生活社／岡登貞治編『原始文様図鑑』東京堂出版／同
 『世界文様図鑑』同／同『文様の事典』同／亀倉雄策『デザイン随想離陸 着陸』美術出版社／『芸術新潮』—アクセサリーの冒険—1977年6月号、新潮社／『日本の文様』1～30、光琳社／立田洋司『唐草文様 世界を駆けめぐる意匠』講談社選書メチエ／海野弘『装飾空間論』美術出版社／折口信夫『髻籠の話』〔『折口信夫全集第二巻』中公文庫〕／末沢明子「住居・隔てもの・調度——源氏物語における飾りと隔て——」〔『物語とメディア 新 物語研究1』有精堂〕／大丸弘「着る飾るをめぐる二〇歳の虚像」〔井上忠司編『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版〕／『江馬務著作集』4、中央公論社／国分直一「身体装飾と民俗」〔『日本民俗文化大系10』小学館〕／大岡信『装飾と非装飾』晶文社／ボガトウイリョフ『衣裳のフォークロア』セリカ書房／鶴岡真弓『ケルト／装飾的思考』筑摩書房／同『装飾する魂 日本の文様芸術』平凡社／城一夫『装飾文様の東と西』明現社／柳宗玄『かたちとの対話』同時代ライブラリー、岩波書店／ティモシー・ノード画・パトリシア・セリグマン『装飾文字の世界 カリグラフィー』三省堂／小野二郎『装飾芸術 ウィリアム・モリスとその周辺』青土社／吉田光邦『文様の博物誌』同朋舎出版／杉橋陽一『一角獣の変容』朝日出版社／森護『世界の紋章』三省堂／沼田頼輔『日本紋章学』新人物往来社／安田喜憲『蛇と十字架』人文書院／小島嚶禮『蛇の宇宙誌』東京美術／大和岩雄『十字架と渦巻』白水社／ミッシェル・バストゥーロ『悪魔の布』白水社／塚本洋太郎『花の美術と歴史』河出書房新社／アンドレ・シャステル『グロテスクの系譜』文彩社／『イメージの博物誌七 螺旋の神秘』平凡社／『イメージの博物誌十三 龍とドラゴン』同／『イメージの博物誌十五 生命の樹』同／切畑健『日本の染織8 能装束』京都書院／同『日本の染織9 狂言の装束』同

12. 通信と伝達

(ヘルメス・電話・郵便・ラジオ・パソコン通信・テレビ・インターネット)

山口昌男『道化の民俗学』新潮社／鈴木和成『テレフォン』洋泉社／吉見俊哉他『メディアとしての電話』弘文堂／山田登世子『声の銀河系』河出書房新社／マクルーハン『メディア論』みすず書房／吉見俊哉『声の資本主義』講談社選書メチエ／中野翠編『日本の名随筆70 電話』作品社／岡田朋之「テレコム文化の現在形」井上俊編『現代文化を学ぶ』世界思想社／『言語生活』—電話—1985年10月号／吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』新曜社

13. 身ぶり言語 の比較

山口昌男「ハーポ・マルクスとブレヒト」「道化的世界」『道化的世界』ちくま文庫／デズモンド・モリス『ジェスチュア』角川選書／野村雅一『身ぶりとしぐさの人類学』中公新書／同『ボディランゲージを読む』平凡社／藤岡喜愛他『からだ』弘文堂／アンドレ・ルロワ＝グーラン『身ぶりと言葉』新潮社／池上俊一『歴史としての身体』柏書房／シュミット『中世の身ぶり』みすず書房／小林祐子『身ぶり言語の日英比較』エレック選書／野村雅一・鈴木道子責任編集『身ぶりと音楽』東京書籍／多田道太郎『しぐさの日本文化』筑摩書房／★『別冊國文學 身体論とパフォーマンス』學燈社の関係書誌を参照／『言語生活』—身体から発することば—1987年2月号／『言語生活』—身振り言語—1973年3月号／武智鉄二「しぐさの日本語」『言語生活』1979年6月号／風間喜代三「身ぶり」『ことばの身体誌』平凡社／リジャー・プロズナハン『しぐさの比較文化』大修館書店／西原忠毅『ジェスチャー英語』九州大学出版会／中野道雄『ジェスチュアの英語』創元社

14. メディアと しての身体 (Ex. 足)

山口昌男「足から見た世界」『文化の詩学II』岩波現代選書／同「足の文化人類学」『笑いと逸脱』筑摩書房／河野亮仙「摺り足」、宮尾慈良「足にみる神の動態」『身ぶりと音楽』東京書籍／『思想』—身体—1982年8月号、岩波書店／『エビステーメー』—身体—1977年12、朝日出版／『岩波講座 現代社会学4 身体と間身体の社会学』岩波書店／湯浅泰雄『身体の宇宙性—東洋と西洋』／山口昌男他編『別冊國文學 身体論とパフォーマンス』學燈社★本誌収録の関係書誌参照／堀内守『手の宇宙誌』黎明書房／水野祥太郎『ヒトの足—この謎にみちたもの』創元社／野村雅一他編『技術としての身体』大修館書店／ルークス、フランソワーズ『肉体—伝統社会における慣習と知恵』マルジュ社／野村雅一『身体技法論』へのノート』『岩波講座文化人類学 第3巻「もの」への人間世界』／『言語』—ボディランゲージの世界—身体が発信するメッセージ 1992年1月号／『叢書 身体と文化』全3巻、大修館書店／秦恒平『手さぐり日本—「手」の思索—』玉川大学出版部／加藤秀俊「日本人の手」『加藤秀俊著作集4』中央公論社／野中涼『歩く文化座る文化—比較文化論—』早稲田大学出版部／ギャリック・マラーリ『人間は手で話す』PMC出版

15. 仮面の比較 文化

山口昌男『道化的民俗学』新潮社／レヴィストロース『仮面の道』新潮社／吉田憲司『仮面の森』講談社／坂部恵『仮面の解釈』東京大学出版会／同『仮面の時代』河出書房新社／国立歴史民族博物館編『変身する』平凡社／堀上謙『能面変妖』朝日新聞社／『is』—仮面—第4号、ポーラ文化研究所／武智鉄二「仮面・刺青・化粧のグロテスク」『伝統と現代』—グロテスク—17号、伝統と現代社／『折口信夫全集』16、17、中公文庫／谷川健一「仮面と人形」『魔の系譜』講談社学術文庫／山

折哲雄「仮面の誕生」『生と死のコスモグラフィ』法蔵館／縄文造形研究会編著『縄文図像学Ⅱ 仮面と身体像』言叢社／山城祥二編『仮面考』リポレポート／西村清和「お面ごっこ」『遊びの現象学』勁草書房／柳田国男「仮面に関する一二の所見」『定本柳田国男集』31、筑摩書房／『エピステーメー』一仮面 ベルソナー1975年11、朝日出版／シュテルンベルク『デーモン考』法政大学出版局／『早川孝太郎全集』3、未来社／渡辺守章『仮面と身体』朝日出版／ベドゥアン『仮面の民俗学』白水社／西村清和『遊びの現象学』勁草書房／中村保雄『仮面と信仰』新潮選書／バシユラル「仮面」『夢みる権利』筑摩叢書／野村伸一『仮面戯と放浪芸人』ありな書房／国立歴史民俗博物館編『変身する仮面と異装の精神史』平凡社／廣田律子『鬼の来た道 中国の仮面と祭り』玉川大学出版会／桜井徳太郎他『変身 ふおるく叢書3』弘文堂／アラダイス・ニコル『ハーレクインの世界』岩波書店／木村重信「仮面とはなにか」『続 民族学の旅』講談社／後藤淑「民俗から仮面劇へ」『講座日本の民俗8 芸能』有精堂／金原信高他『能面入門』平凡社

16. 巡礼の比較

武田明『巡礼の民俗』岩崎美術社／白洲正子『巡礼の旅』淡交社／同『十一面観音巡礼』新潮社／『折口信夫全集』12、14、27、中公文庫／坂本恵「巡礼とコミュニケーション」『シリーズ世界史への問い3』岩波書店／前嶋信次編『メッカ』芙蓉書房／永積昭「巡礼・聖戦・救世主」〔家島彦一・渡辺金一編『イスラム世界の人びと 四・海上史』東洋経済新報社〕／星野英紀「歩きと巡りの宗教性 西国巡礼と四国遍路」〔『大系 仏教と日本人6 遊行と漂泊』春秋社〕／ウド・トゥウォルシュカ『遍歴 約束の土地を求めて』青土社／五来重『遊行と巡礼』角川選書／青木保『御岳巡礼』筑摩書房／近藤喜博『四国遍路研究』三弥井書店／田中博『巡礼地の世界』古今書院／前田卓『巡礼の社会学』ミネルヴァ書院／松崎憲三『巡りのフォークロア』名著出版／真野俊和編『講座日本の巡礼』全三巻、雄山閣／山折哲雄『巡礼の思想』弘文堂／渡辺昌美『巡礼の道』中央公論社／星野英紀『巡礼』講談社／バレ・ギェルガン『巡礼の道 星の道 コンポステラへ旅する人びと』平凡社／久保田展弘『山岳霊場巡礼』／渡邊昌美『巡礼の道』中公新書／『芸術新潮』一墓 巡礼—1989年8月号、新潮社／早坂暁『日本の名随筆 別巻21 巡礼』作品社／高群逸枝『お遍路』／山口昌男「王子の受難」(一)『天皇制の文化人類学』立風書房／懷徳堂友の会編『道と巡礼 心を旅するひとびと』和泉書院／前田卓『巡礼の社会学』ミネルヴァ書房／近藤喜博『四国遍路』桜楓社／松田修「補陀落詣での死の旅」『伝統と現代』16号、1972年〕／新城常三『社寺参詣の社会経済史的研究』塙書房／宮崎忍勝『遍路』小学館／三好一成他「聖地と巡礼」／山折哲雄・宮田登編『日本歴史民俗論集8 漂泊の民俗文化』吉川弘文館／井本英一「巡礼の起源

をたずねて」『習俗の始源をたずねて』法政大学出版局]

17. 登山の比較

小島烏水『日本アルプス』岩波文庫／田部重治『山と溪谷』岩波文庫／ウェストン『日本アルプスの登山と探検』岩波文庫／串田孫一自選『山のパンセ』岩波文庫／松方三郎『アルプス記』平凡社／田部重治『わが山旅五十年』平凡社／ミシュレ『山』藤原書店／深田久弥『日本百名山』朝日新聞社／長谷川末夫『汽車が好き、山は友だち』草思社／ウェストン『日本アルプス再訪』平凡社／住谷雄幸『江戸百名山図譜』小学館／高澤光雄編『北海道登山記録と研究』札幌山の会／滝本幸夫『北の山の栄光と悲劇』岳書房／同『北の山——北海道55座の記録と案内』山と溪谷社／ウィンパー『アルプス登攀記』上・下、岩波文庫／深田久弥『わが山』中公文庫／松本竜雄『初登攀行』同／吉尾弘『垂直に挑む』同／小西政継『マッターホルン北壁』同／同『グランドジョラス北壁』同／小森康行『垂直の上と下』同／長谷川恒男『岩壁よ おはよう』同／尾崎隆『果てしなき山行』同／岩坪五郎編『K十二峰遠征記』同／北杜夫編『日本の名随筆10 山』／榎有恒『わたしの山旅』岩波新書／深田久弥『ヒマラヤ登攀記』同／宮下啓三『日本アルプス見立ての文化史』みすず書房／瓜生卓造『日本山岳文学史』東京新聞出版局／安川茂雄『近代日本登山史』あかね書房／近藤信行『小島烏水 山の風流使者伝』創文社／田中澄江『花の百名山』文藝春秋／山崎安治『新稿 日本登山史』白水社／柏瀬祐之『ヒト、山に登る』白水社／葉師義美編『ヒマラヤ文献目録』白水社／小西政継『シャヌー北壁』白水社／ミシュレ『山』藤原書店／西村謙一「開かれた『山』——新田次郎『強力伝』論」〔『成城国文学』第13号1997年3月〕／『深田久弥・山の文学全集』全12巻、朝日新聞社／『新田次郎全集』新潮社／★雑誌『アルプ』のバックナンバー図書館にあり／岩田修二『氷壁』の自然誌〔杉浦芳夫編『文学 人域 越境する地理学』古今書院／西岡一雄『登山の小史と用具の変遷』／『世界山岳百科事典』山と溪谷社／福田宏年『山の文学紀行』沖積舎／川口邦雄『日本の山100』講談社現代新書／三田博雄『山の思想史』岩波新書／榎有恒『わたしの山旅』同／後藤允『尾瀬——山小屋三代の記』同／富山太佳夫「女は街へ、男は山へ」〔『空から女が降ってくる』岩波書店〕

18. 酒文化の比較

倉林正次『饗宴の研究』桜風社／伊藤幹治・渡辺欣雄『宴』弘文堂／伊藤幹治『宴と日本文化』中央公論／柳田国男「酒の飲みようの変遷」〔『木綿以前の事』岩波文庫〕／サントリー不易流行研究所編『若者と酒——飲酒から見た現代若者像』サントリー不易流行研究所／同『宴会とパーティー』同／神崎宣武『酒の日本文化』角川選書／『言語生活』—当代飲コミュニケーション考— 1986年12月号、筑摩書房／狐野利久「喫茶、飲酒の習慣と文化」〔『比較文化入門』北星堂書店〕／古澤淑『酒の文化

史』丸善ライブラリー／麻井宇介『比較ワイン文化考』中公新書／『日本の美学』一宴—第8号、ペリかん社／神崎宣武『盛り場のフォークロア』河出書房新社／『is』一宴—19号、ポーラ文化研究所／神崎宣武『酒の日本文化』角川選書／海野弘『酒場の文化史——ドリンカーたちの華麗な足跡』TBSブリタニカ／吉行淳之介 vs 開高健『対談・美酒について——人はなぜ酒を語るか』同／一島英治『万葉集にみる酒の文化』裳華房／高田公理『“酒”をめぐる美意識の変化』『現代日本文化における伝統と変容1 暮らしの美意識』ドメス出版／コリン・ウィルソン『わが酒の讃歌』徳間書店／『東京大学公開講座 酒』／山本祥一郎監修『酒・さけ事典』大修館書店／キングズレー・エイミス『酒について』講談社／『言語生活』一酒—1986年12号／川口謙二『日本酒のフォークロア』三一書房／玉村豊男『酒宴のかたち』紀伊國屋書店／網野善彦 vs 阿部謹也『宴会ともてなし』(『対談・中世の再発見 市・贈与・宴会』平凡社選書)

19. 水と文化

山口昌男『水と世紀末の文明』(『自然と文明の想像力』宝島社)／石上七鞘『水の伝承』新公論社／『is』一水—第6号、ポーラ文化研究所／ソーラーシステム研究グループ『都市の水環境』／小島貞男『おいしい水の探求』NHKブックス／エリアーデ『水の象徴』(『聖と俗』法政大学出版局)／鎌田東二『水の作法・水の祭祀』(『異界のフォノロジー』河出書房新社)／エリアーデ『水と水のシンボリズム』(『エリアーデ著作集』2、セリカ書房)／若尾五雄『河童と湧水』(『河童と荒魂』堺屋図書)／東三郎『北海道 森と水の話』北海道新聞社／樋口清之『水と日本人』ガイア／清水公照・佐田稲子『お水取り』平凡社カラー新書／富山和子『水と緑と土』中公新書／富山和子『水の文化史』文藝春秋／佐藤武夫『水の経済学』岩波新書／山口嘉之『水を訪れる』中公新書／中西準子『水の環境戦略』岩波新書／高橋裕『都市と水』同／三島雲海『日本の水』誠文堂／『エピステーメー』一水 生と死の深淵— 1976年4、朝日出版／井上祥子『ひとしづくの水が救う』日興企画／井上靖編『日本の名随筆33 水』作品社／玉城哲『水社会の構造』論創社／バシュラール『水と夢』国文社／『太陽』一水の文化—1985年6月号／芦澤一洋『アーヴィングを読んだ日』小沢書店／安藤徹『橋・峠・川・水——空間を繋ぐ——』(『物語とメディア 新 物語研究1』有精堂)／『水と私たち——北海道自然保護読本——』北海道自然保護協会／堀越正雄『井戸と水道の話』論創社／同『水道の文化史』鹿島出版会／★『地球・自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／及川馥『バシュラールの詩学』法政大学出版局／谷川健一編『日本民俗文化大系2 太陽と月』小学館／アルヴ・リトル・クルーティエ『水と温泉の文化史』三省堂／宇井純『日本の水はよみがえるか』NHKライブラリー／榮森康治郎『水と暮らしの文化史』TOTO出版／田島よしのぶ『水と土と森の収奪』海鳥

社／『水の生活文化 水の博物館「水」』KBI叢書／鯖田豊之『水道の思想 都市と水の文化誌』中公新書／榎根勇他『水その学際的アプローチ』日本学術振興会／『九州大学公開講座16 水を考える』九州大学出版会／吉成直樹『水による《死と再生》——八重山諸島』『マレビトの文化史 琉球列島文化多元構成論』第一書房／橋本鉄治『水声譚』十月社／吉成直樹『『夏の若水』は存在する——七夕・盆行事の水をめぐる俗信』『俗信のコスモロジー』白水社／赤坂憲雄『物語の境界／境界の物語』『叢書史層を掘る1 方法としての境界』新曜社／本田和子『オフィーリアの系譜』弘文堂／桜井哲夫『〈水〉の近代——入浴・文化とミネラル・ウォーター』『へるめす』1990年No25／中沢新一編『神々と妖精たち 東洋文庫ふしぎの国』平凡社／アンヌ・ドゥクロス『水の世界 地球・人間・象徴体系』TOTO出版／グリオール『水の神』せりか書房／同『青い狐』同／コバン『浜辺の誕生』藤原書店／山口昌男『児童のコスモロジー 石田英一郎の思想と学問』講談社学術文庫／松枝到『水のなかの道祖神』『現代思想』1984年11月号

20. 色彩の比較文化

山口昌男『青の文化誌』『可視光』第一巻第三号／同『黒の人類学』『人類学的思考』筑摩書房／『is』一色一1982年増刊号、ポーラ文化研究所／小町谷朝生『色彩のアルケオロジー』勁草書房／長崎盛輝『色の日本史』淡交社／大岡信編『日本の色』朝日新聞社／『季刊 日本の美学』一色一1985年5号、ベリかん社／前田雨城『色』法政大学出版局／『季刊・自然と文化』一白と黒一7号、日本ナショナルトラスト／武井邦彦『日本色彩事典』笠間書院／江森康文他『色 その科学と文化』朝倉書店／小林重順『日本人の心と色——色彩によるユニークな比較文化論』講談社／福田邦夫『日本の伝統色 色の小辞典』読売新聞社／赤池鉄士『英語色彩の文化誌』研究社出版／ゲーテ『色彩論』『ゲーテ全集14』潮出版社／ルドルフ・シュタイナー『色彩の本質』イザラ書房／同『色彩の秘密』同／城一夫『色彩の宇宙誌——色彩の文化史——』明現社／江幡潤『色名の由来』東書選書／伊原昭『日本文学 色彩用語集成』笠間書院／末永蒼生『虹の映画色彩で愉しむシネマ案内』白水社／中村雄二郎『色の領界かたちの分身』『へるめす』1987年13号／『言語生活』一色とことば一1984年8月号／黒田日出男『境界の中世 象徴の中世』東海大学出版会／田中日佐夫『日本美術にあらわれた金と銀』『日本美の心象風景』吉川弘文館／村上道太郎『色の語る日本の歴史』全3冊、そして／網野善彦vs阿部謹也『社会史と歴史学の伝統』『対談・中世の再発見』平凡社選書／『日本とアジア＝生活と造形6 色と形』学生社／城一夫他『色彩の歴史と文化』明現社／ミシェル・パストゥロー『ヨーロッパの色彩』／小町谷朝生『色彩の発見』NHKブックス／野村順一『増補 色の秘密』ネスコ

21. シャーマニズム

山口昌男「シャーマンとしてのヘルメス」『道化の民俗学』新潮社／山口昌男vs長島信弘「呪術・占い・シャーマニズム」『文化人類学の視角』岩波書店／エリアーデ『シャーマニズム』冬樹社／倉塚暉子『巫女の文化』平凡社／ロジャー・ウォルシュ『シャーマニズムの精神人類学』春秋社／ピアーズ・ヴィテプスキー『シャーマンの世界』創元社／柳田国男『巫子考』『柳田国男全集 11』ちくま文庫／『古野清人著作集 3』一シャーマニズムの研究一、三一書房／カスターネーダー『呪術ドンファンへの教え』二見書房／崔古城『韓国のシャーマン』国文社／『現代思想』一シャーマニズム一1984年7月号／『折口信夫全集』1、2、3、7、9、10、11、16、20、24、30、中公文庫／フレイザー『金枝篇』1)2)岩波文庫／桜井徳太郎編『シャーマニズムの世界』春秋社／『エリアーデ著作集』13、せりか書房／谷川健一編『巫女の世界 日本民俗文化資料集成6』三一書房／『日本シャーマニズムの研究 上・下 桜井徳太郎著作集5・6』吉川弘文館／吉本隆明『共同幻想論』河出書房新社／山下欣一『奄美のシャーマニズム』弘文堂／韓国文化院監修『シャーマニズムと韓国文化』学生社／『万神 韓国のシャーマニズム』平河出版／張紫晨『中国の巫術』学生社／中山太郎『日本巫女史』バルトス社／佐々木宏幹「都市に息づくシャーマニズム」『異界が覗く市街図』青弓社／同『シャーマニズムの世界』講談社学術文庫／同『シャーマニズム』中公新書／マリノフスキー『呪術・科学・宗教・神話』人文書院／文化庁文化保護部編『民俗資料選集 巫女の習俗』I～III／山上伊豆母『巫女の歴史 日本宗教の母胎』雄山閣／ダニエル・ローレンス・オキーフ『盗まれた稲妻 呪術の社会学』上・下、法政大学出版局／中沢新一編『神々と妖精たち 東洋文庫ふしぎの国9』平凡社／林達夫「呪術の世界」『林達夫著作集2』平凡社／『日本とアジア=生活と造形 1 民族と信仰』学生社／M・エリアーデ『生と再生』東京大学出版会／マルティノー『呪術的世界』平凡社／E・リーチ『文化とコミュニケーション』紀伊國屋書店／河北新報社編集局編『もう一つの世界=庶民信仰』勁草書房／岩田勝『神楽新考』名著出版／山折哲雄『神と翁の民俗学』講談社学術文庫

22. アニミズム

安藤恵崇「日本文化とシャーマニズム」〔安藤恵崇他『日本文化を読み直す』北樹出版〕／平川祐弘・鶴田欣也編『アニミズムを読む 日本文学における自然・生命・自己』新曜社／岩田慶治『カミと神 アニミズム宇宙の旅』講談社／同『コスモスの思想』岩波書店／村武精一『アニミズムの世界』弘文堂／同『祭祀空間の構造』東京大学出版会／柳田国男『先祖の話』筑摩書房／フォーチス・マイヤー『祖先崇拜の論理』ペリカン社／佐々木宏幹『仏の霊の人類学』春秋社／村武精一・佐々木宏幹『宗教人類学』新曜社／同『仏と霊の人類学—仏教文化の深層構造』春秋社／池上良正『民俗宗教と救い』淡交社／伊藤幹治『贈与交換の人類学』

23. お化け及び お化け屋敷

柳田国男『妖怪談義』〔柳田国男全集〕6、ちくま文庫〕／宮田登『妖怪の民俗学』岩波書店／池田弥三郎『日本の幽霊』中央公論社／小松和彦『悪霊論』青土社／『三遊亭円朝コレクション 幽霊名画集』ペリかん社／高田衛監修『鳥山石燕 画図百鬼夜行』国書刊行会／『ユリイカ』—妖怪学入門—1984年8月号、青土社／『歴史読本』—異界の日本史・鬼・天狗・妖怪の謎—1989年12月号／中野美代子『中国の妖怪』岩波新書／稲垣足穂『稻生家ニ化物コンクール』人間と歴史社／『季刊 自然と文化』—妖怪—1984年秋季号、日本ナショナルトラスト／宮田登『屋敷と妖怪・家の神』〔女の霊力と家の神』人文書院〕／『折口信夫全集』3、15、16、20、中公文庫／榎図かずお「お化け屋敷進化論」〔『東京人』1997年8月号〕／谷川健一編『妖怪 日本民俗文化資料集成 8』三一書房／岩井宏實監修『図説 日本の妖怪』河出書房新社／宮田登『近代の逢魔ヶ時・東京の魔所』〔異界が覗く市街図』青弓社〕／諏訪春雄『日本の幽霊』岩波新書／『太陽』—お化けと幽霊—1975年8月号／『太陽』—妖怪現わる—1995年5月号／『別冊太陽 日本の妖怪 日本のこころ57』平凡社／常光徹『学校の怪談』講談社KKベストセラーズ／橋爪紳也『化物屋敷 遊戯化される恐怖』中公新書／荒俣宏・小松和彦『妖怪草紙』工作舎／向井英明「化物屋敷再考」〔『都市民俗学へのいざない—混沌と生成』〕／荒俣宏編『妖怪・怪物 東洋文庫ふしぎの国1』平凡社／井之口章次『日本の俗信』弘文堂

24. 遊園地 (ディズニーランド・浅草・宝塚)

中藤保則『遊園地の文化史』自由現代社／NHK取材班『世界の遊園地』／加藤秀俊『都市と娯楽』鹿島研究所出版会／松本孝幸『遊園地の現在学』JIC／吉見俊哉「デズニーランド化する都市」〔『アリティ・トランジット』紀伊國屋書店〕／『東京人』—遊園地の誘惑—1997年8月号、都市出版株式会社／能登路雅子「ディズニーランドの巡礼観光」〔『観光人類学』新曜社〕／野口恒『「夢の王国」の光と影 東京デズニーランドを創った男たち』TBSブリタニカ／加太こうじ『浅草物語』／栗田房穂・高成田亨『デズニーランドの経済学』朝日文庫／津金澤聰廣『宝塚戦略 小林一三の生活文化論』講談社現代新書／竹林民郎『機械文化の受容と“交通文化圏”の成立—小林一三と宝塚少女歌劇』〔『笑楽の系譜』同文館〕／吉見俊哉「ディズニーランドという幻影」〔『顕わすメディア／隠すメディア』ポラ文化研究所／同「シュミラクルの楽園—都市としてのディズニーランド」〔『零（ゼロ）の修辞学』リプロポート〕／伊藤正視『人が集まるテーマパークの秘密』日本経済新聞社／浅田彰「東京デズニーランドに行ったこと」〔『別冊國文學 文化記号論A—Z』〕／前田愛「劇場としての浅草」〔前出同〕／能登路雅子『ディズニーランドという聖地』岩波書店／マラン「ディズニーランドの記号学」〔『現代

25. カーニバル と祝祭

山口昌男「カーニバル文化としての狂言」(『宇宙の孤児』第三文明社)／同「アンソールのカーニヴァルの世界」(『道化的世界』ちくま文庫)／同「記号と境界」(『文化と両義性』岩波書店)／同『本の神話学』中央公論社／同『歴史・祝祭・神話』中央公論社／同『道化の民俗学』新潮社／『日本歴史と芸能都市の祝祭 第十巻』平凡社／コズマン『ヨーロッパの祝祭典』原書房／村武精一「生と死の祝祭空間」(『日本の美学』第16号、ベリかん社)／服部幸雄『大いなる小屋——近世都市の祝祭空間——』平凡社／ウンベルト・エーコ他『カーニバル!』岩波書店／レオン・マルケ他『ヨーロッパの祝祭』河出書房新社／マカルーン編『世界を映す鏡——シリヴァリ・カーニバル・オリンピック』平凡社／兼高かおる『世界の祭り』ソニー・マガジズ／マックグラシャン「野蛮で美しい国」(山口昌男編『現代人の思想15 未開と文明』平凡社)／シュテルンベルク『デーモン考』法政大学出版局／伊藤正視『人が集まるテーマパークの秘密』日本経済新聞社／桜井徳太郎他『ハレ・ケ・ケガレ』青土社／ターナー『儀礼の過程』思索社／ヘネップ『人類学ゼミナール3 通過儀礼』弘文堂／山口昌男「交換と媒介の磁場」(『叢書文化の現在』岩波書店)／松平誠「道で結ぶ祝祭」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第67集)／同『都市祝祭の社会学』有斐閣／山城祥二『祭りといイベントのつくり方』晶文社／米山俊直『祇園祭——都市人類学ことはじめ』中央公論社／同『天神祭——大阪の祭礼——』同／同『都市と祭りの人類学』河出書房新社／同『ドキュメント 祇園祭——都市と祭りと民衆』日本放送出版協会／アラン・フォール『パリのカーニバル』平凡社／森田三郎『祭りの文化人類学』世界思想社／植木重雄『ヨーロッパの神と祭り 光と闇の習俗』早稲田大学出版会／青木保他編『儀礼・文化と形式的行動』東京大学出版会／J・カロ・パロツハ『カーニバル』法政大学出版局／V・ターナー&山口昌男編『見世物の人類学』三省堂／大室幹雄『桃源の夢想』同／山口昌男『祝祭都市』岩波書店／松平誠「祝祭都市の成立と変容」(宮田登編『日本民俗文化大系11 都市と田舎』小学館)／『言語生活』一祭— 1977年8月号／三隅治雄『祭りの情念』三一書房／石上七鞆『日本の民俗伝承』蒼洋社／アルフレッド・シモン『記号と夢想 演劇と祝祭についての考察』法政大学出版局／ナタリー・ゼーモン・デイヴィス「女性上位」(『さかさまの世界』岩波書店)／鶴見俊輔・小林和夫編『祭りといイベントのつくり方』晶文社／『北の生活文庫9 まつりと民俗芸能』北海道／ハリソン『古代芸術と祭式』ちくま学芸文庫／天野武『子どもの歳時記——祭りとい儀礼』岩田書院／当問一郎『日本の民俗学シリーズ 2 沖縄の祭りとい芸能』雄山閣／古川貞雄『村の遊び日 休日とい若者組の社会史』平凡社選書

26. 舞 踏

山口昌男「**舞踏と世界観**」〔『知の祝祭』青土社〕／鼎談・郡司正勝・市川雅・山口昌男「**舞いと踊りの世界**」〔『is』—舞踏—第16〕／山口昌男 vs ガデス「**身体の幾何学——フラメンコと文化のアイデンティティ**」〔『へるめす』1986年7号〕／マルセル・グラネ『**中国古代の舞踏と伝説**』せりか書房／河野亮仙「**舞踊武術**」、宮尾慈良「**身ぶりの照応——舞踊の身体試論**」〔『身ぶりと音楽』東京書籍〕／鈴木晶『**踊る世**』新書館／クルト・ザックス『**世界舞踊史**』音楽之友社／藤田洋『**伝統芸能シリーズ 1 日本舞踊**』ぎょうせい／レイナ『**バレエの歴史**』音楽之友社／平野秀秋『**移動人間論**』紀伊國屋書店／『**早川孝太郎全集**』1、未来社／三浦雅士「**イデオロギーとしての身体 ダンスとオリエンタリズム**」〔『へるめす』1988年創刊三周年記念別巻〕／ケレーニ『**迷宮と神話**』弘文堂／郡司正勝『**おどりの美学**』演劇出版社／小林正佳『**踊りと身体の回路**』青弓社／西郷信綱『**古代の声**』朝日選書／柳田国男「**踊の今と昔**」〔『定本柳田国男集』7、筑摩書房〕／同「**舞と踊との差別**」〔『定本柳田国男集』31、同〕／『**文学**』—日本舞踊—1960年10月号／宇野邦一「**舞踏・奇妙なボトラッチ**」〔『意味の果ての旅』青土社〕／高橋英夫「**幽頭の境**」〔『現代思想』1983年2月号〕／本田和子「**『花一匁』考——子どもたちの『歌垣』**」〔『現代思想』同号〕／星野紘『**歌垣と反問の民族誌**』創樹社／『**本田安次著作集**』全12巻、錦正社／三隅治雄『**日本民俗芸能概論**』東京堂／吉川周平「**民俗舞踊の芸能**」〔『講座日本の民俗8 芸能』有精堂〕／鶴見俊輔『**アメノウズメ伝**』平凡社／ハリソン「**原始祭式、無言所作踊り**」〔『古代芸術と祭式』ちくま学芸文庫〕／舞踊教育研究会編『**舞踊学講義**』大修館書店／マーガレット・ドゥブラー『**舞踊学原論**』大修館書店／ルドルフ・ラバン『**身体運動の習得**』白水社／スザンヌ・ランガー『**芸術とは何か**』岩波新書／リリアン・B・ローウラー『**古代ギリシアの舞踊文化**』未来社／ジョン・マーチン『**舞踊入門**』大修館書店／エレナ・メセーニ『**身体運動の表現学**』泰流社／ジャン・ジュルジュ・ノヴェール『**舞踊とバレエについての手紙**』富山房／ポール・ヴァレリー「**魂と舞踊**」〔『ヴァレリー全集3』筑摩書房〕★前出の『舞踊学講義』大修館書店に詳しい文献あり

27. 文化表現としての相撲

山口昌男「**相撲における儀礼と宇宙観**」〔『国立民族博物館研究報告 第15集』〕／V・ターナー・山口昌男編『**見世物の人類学**』三省堂／宮本徳蔵『**力士漂泊**』ちくま文庫／三田村篤魚『**相撲の話**』中公文庫／和歌森太郎「**相撲の歴史と民俗**」〔『和歌森太郎著作集15』弘文堂〕／若尾五雄『**河童の荒魂**』塙屋図書／『**日本民俗文化大系**』七、小学館／寒川恒夫「**古代人の遊びの系譜**」〔『日本の古代 13 心のなかの宇宙』中央公論社〕／長谷川明『**相撲の誕生**』新潮選書／池田雅雄『**相撲の歴史**』平凡社カラー新書／三木愛花『**國技角力通**』四六書院／『**芸術新潮**』—日本文化を支えてきた相撲の美学—1993年7月号、新潮社／『**太陽**』—大相撲—

1972年4月号／菌部幹生「相撲人説話の視点から——宇治拾遺物語編者の意識——」『駒澤短大國文』第27号、1997年3月

28. 風水論

『季刊 自然と文化』—東アジアの風水思想—36号、日本ナショナルトラスト／渡邊欣雄『風水思想と東アジア』人文書院／同『風水気の景観地理学』人文書院／加門七海『東京魔方陣』河出書房新社／同『大江戸魔方陣』同／鮑黎明『風水で運を呼び込む大事典』東洋経済／三浦國雄『中国人のトポス』平凡社／御堂龍児『定本地理風水大全』国書刊行会／朝鮮総督府編『朝鮮の風水』国書刊行会／中野美代子「長江をめぐるひょうたんシンボリズム——風水文化論」『ひょうたん漫遊録』朝日選書／吉野裕子『神々の誕生 易・五行と日本の神々』岩波書店／渡邊欣雄・三浦國雄編『環中国海の民俗と文化——4 風水論集』凱風社／テ・ホロート『中国の風水思想』第一書房／池上正治『気の不思議 その源流をさかのぼる』講談社現代新書／李国棟「文学と風水」『日中文化の源流 文学と神話からの分析』白帝社

29. 「飛ぶ」

(韋駄天・飛天・
天使・天馬・
天狗)

小島禮禮編著『人・他界・馬』東京美術／『Is』—空中遊戯—1989年45号、ポーラ文化研究所／稲垣足穂『飛行機物語』第三文明社／同『花月幻想』立風書房／高山宏『「憑き」の方へ』『黒に染める』ありな書房／『調査情報』—飛ぶ—1973年10月号、TBS／ニーチェ『重さの霊』『ツァラトゥストラ』中公文庫／バシュラール『空と夢』法政大学出版会／石田英一郎「天馬の道」『桃太郎の母』講談社文庫／大和岩雄「箒の二面性・両義性と魔女」『魔女はなぜ人を喰うか』大和書房／宮本袈裟雄『天狗と修験者』人文書院／堀切直人『飛行少年の系譜』青弓社／山口香代子「インド仏教美術における「弧を描く天衣を翻す飛天」——その源流と成立——」『聖心女子大学大学院機関誌文学・史学』第18集、1996年7月／フランシス・ハックスリー『イメージの博物誌13 龍とドラゴン』平凡社／荒川紘『龍の起源』紀伊國屋書店／野口常夫「飛ぶ——レオナルドの後裔たち』『へるめす』1992年No35』／杉村棟「空飛ぶ絨毯 く砂漠の夢」〔梅棹忠夫編『異文化の探求』講談社〕／富山太佳夫『空から女が降ってくる』岩波書店／稲田浩二「天翔ける馬」『昔話の源流』三弥井書店〕／ロミ『突飛なるものの歴史』作品社／『龍の物語』新宿書房

30. 水神

石上七鞘『水の伝承』新公論社／山本博『神秘の水と井戸』學生社／『折口信夫全集』3、15、16、17、中公文庫／マルセル・グリオール『水の神——ドゴン族の神話的世界』せりか書房／石田英一郎『水神童子』『桃太郎の母』講談社文庫／鎌田東二「水神童子としての『空海』」『聖トポロジー』河出書房新社〕／同『水神伝説』泰流社／若尾五雄『河童の荒魂』堺屋図書／野村純一「水神少童の昔話」『日本民俗学』96

号) / 『定本柳田國男集』1~14、17、21、26、27、29、30、筑摩書房 / 小野重朗「水神」〔『民俗神の系譜』法政大学出版 / 『早川孝太郎全集』8、未来社 / 吉野裕子「井戸と竜宮」〔『日本古代呪術』大和書房) / 石田英一郎「新版河童駒引考」〔『石田英一郎全集5』筑摩書房 / 萩原秀三郎『目でみる民俗神2 豊穰の神と家の神』東京美術 / 宮尾しげを『芸能民俗学』現代ジャーナリズム出版会 / 山口昌男『河童のコスモロジー 石田英一郎の思想と学問』講談社学術文庫 / 澤田瑞穂「竜宮伝書——水神に手紙を届ける話——」〔『日本昔話研究集成 第5巻 昔話と文学』名著出版)

31. スポーツ

山口昌男 vs アイヒベルグ「スポーツ文化とポストモダン」〔『へるめす』1992年37号、岩波書店) / バットー『文明としてのスポーツヒーローの心理学』日本経済新聞社 / 『現代思想』—スポーツの人類学—1986年5月 / ヘニング『身体文化のイマジネーション』新評論 / 金山宣夫『ヒーローの文化論』角川選書 / 同『比較文化のおもしろさ』大修館書店 / 神田順「スポーツと国民性」〔亀井俊介他編『日本とアメリカ比較文化論3 生活のスタイルと価値観』南雲堂) / トレバー・レゲット『紳士道と武士道』サイマル出版会 / 水田和生「野球と温泉」〔『比較生活文化学序説』白馬社) / ピーター・ミルワード「騎士道と武士道」〔『イギリス人と日本人』講談社現代新書 / 鹿毛誠一『型から見た日本の文化』見洋書房 / 外村直彦「剣道とフェンシング」〔『添う文化と突く文化』淡交社) / 池井優『野球と日本人』丸善ライブラリー / 玉木正文・ホワイティング『ベースボールと野球道』講談社現代新書 / 田中徳久・吉川久美子『日本史小百科26 スポーツ』近藤出版社 / 野林正路・飯島達明「野球競技の構造」〔『日本語と文化・社会 ことばとシンボル』三省堂) / トニー・メイソン『英国スポーツの文化』同文館 / ブルデュー「どうしたらスポーツマンになれるか」 / 三橋修「政治文化としてのプロ野球」 / 甲野善紀「現代における武術の意味」 / トンプソン「プロレスのフレーム分析」〔『身体政治技術 叢書社会と社会学3』新評論) / 『is』—スポーツのたぐらみ—1988年41号、ポーラ文化研究所 / 鳴海正泰『テニス明治誌』中公新書 / 池井優『白球太平洋を渡る』中公新書 / 池井優『大リーグへの招待』平凡社カラー新書 / 中村敏雄『近代スポーツ批判』三省堂 / 同他『現代スポーツ論』大修館書店 / 平出修『白球礼讃 ベースボールよ永遠に』岩波新書 / 島秀之助『プロ野球審判の眼』同 / 大西鉄之祐『ラグビー荒ぶる魂』同 / 『日本スポーツ50年史』ベースボール・マガジン社 / 草森紳一「剣法と円」「太平の剣」〔『見立て狂い』フィルムアート社) / 桂英史『『速い男』をめぐるエクスタシー——テクノロジーとしてのスポーツ』〔『メディア論的思考』青弓社) / 竹村民郎「中等学校野球の誕生」〔『笑楽の系譜』同文館) / 多木浩二「スポーツという症候群」〔『零の修辞学』リブレポート) / B・モーラン「高校野球」〔『日本文化の記号学』

東信堂〕／宇沢弘文 vs C・W・ニコル「スポーツ全盛時代」〔『へるめす』1985年4号／清水博他「剣の理と場所の論理」〔『iichiko』1995年No37〕／細川周平『サッカー狂い』哲学書房／ベルナル・ジレ『スポーツの歴史』白水社／マグーン Jr.『フットボールの社会史』岩波新書／『龍谷紀要』第18巻第2号／亀山佳明「スポーツと日常生活にみる滑走感覚」〔井上俊編『現代文化を学ぶ』世界思想社〕／シャド『ラグビーとイギリス人』ベースボール・マガジン社／中井正一「スポーツ気分の構造」〔『久野収編『美と集団の論理』中央公論社／平出隆編『日本の名随筆73 野球』作品社／大住良之『サッカーへの招待』岩波新書／★『スポーツの本全情報』紀伊國屋書店を参照／N・エリアス他『スポーツと文明化』法政大学出版局／多木浩二『スポーツを考える』ちくま新書／江刺正吾『女性スポーツの社会学』不昧堂出版／亀山佳明『スポーツの社会学』世界思想社／杉本厚夫『スポーツファンの社会学』同／同『スポーツ文化の変容』同／J・リーヴァー『サッカー狂の社会学 ブラジルの社会とスポーツ』同／大島裕史『日韓キックオフ伝説』実業之日本社／『言語生活』一スポーツのことば—1982年10月号／『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録件名編4』／日本スポーツ社会学会編『スポーツ社会学研究』法政大学出版局／細川周平「ヨハン・クライフあるいは斜線の戦略」(サッカー)〔『現代思想』1983年2月号〕／ロラン・バルト「レスルする世界」(レスリング)〔『神話作用』現代思潮社〕／R・ホワイティング『和をもって日本となす』角川書店／竹内宏『竹内宏のスキー経済学』実業之日本社／レールス『遊戯とスポーツ』玉川大学出版部／N・エリアス『スポーツと文明化 興奮の探求』法政大学出版局／オモニー・グルーペ『文化としてのスポーツ』ベースボールマガジン社／K・ブランチャード『スポーツ人類学』大修館書店／ヘニング・アイヒベルグ「身体文化の革命」〔『へるめす』1992年No37〕／佐山和夫『野球から見たアメリカ』丸善ライブラリー／和歌森太郎「スポーツの母胎」〔『遊びの文化史』ベルブックス〕／富山太佳夫『空から女が降ってくる——スポーツ文化の誕生』岩波書店／トニー・メイソン『英国スポーツの文化』同文館／E・ヘリゲル『弓と禅』福村出版

32. 差別の比較

山口昌男 vs 別役実「排除されたもの」〔『文化人類学の視角』岩波書店〕／同『学校という舞台』講談社新書／座談・安宇植・村井紀・渡部直己・浅田彰・柄谷行人「〈差別〉と文学」〔『批評空間』1994年2号、太田出版〕／デリック・ベル『人種主義の深い淵』朝日選書／神野清一『卑賤観の系譜』吉川弘文館／林久良『仏教にみる差別の根源』明石書店／阿部勤也『中世賤民の宇宙』筑摩書房／赤坂憲雄『排除の現象学』洋泉社／R・ジラルド『身代りの山羊』法政大学出版局／『伝統と現代』一差別—40号、伝統と現代社／森崎和江「差別と禁忌」〔『伝統と現代』18号〕／『日本近代思想大系22 差別の諸相』岩波書店／石井良助『女人差別

と近世賤民』明石書店／赤松啓介『非常民の性風俗』明石書店／同『非常民の民俗文化』同／同『非常民の民俗境界』同／同『差別の民俗学』同／新村仁司『排除の構造』ちくま学芸文庫／野間宏・沖浦和光『日本の聖と賤 中世編』人文書院／同『日本の聖と賤 近世編』同／同『日本の聖と賤 近代編』同／同『アジアの聖と賤』同／野間宏他『差別 その根源を問う』上・下、朝日選書／原田伴彦『被差別部落の歴史』同／菊池山哉『穢多族に関する研究』三星社／岡本弥『特殊部落の解放』警醒社書店／中尾健次『江戸時代の差別観念』三一書房／内野正幸『差別的表現』有斐閣／週刊文春編『徹底追及「言葉狩り」と差別』文藝春秋／岡庭昇『メディアと差別』解放出版社／塩見鮮一郎『差別語と近代差別の解明』明石書店／藤本清一『近世賤民制と地域社会』清文堂／宮田登『原初的思考——白のフォークロア』大和書房／高橋哲哉他『現代哲学の冒険3 差別』岩波書店／筒井康隆『無人警察』『にぎやかな未来』角川文庫／盛田嘉徳他『ある被差別部落の歴史』岩波新書／網野善彦『摺衣と娑婆羅』『文学』1984年3月／細川涼一『死と境界の中世史』洋泉社／同『中世の身分制と非人』日本エディタースクール出版部／高橋貞樹『被差別部落——千年史』岩波文庫

33. 賭け事

ホイジンガー『ホモ・ルーデンス』中央公論社／カイヨワ『聖なるものの社会学』弘文堂／増川宏一『賭博』I～III、法政大学出版局／同『さいころ・すごろく』I・II、同／池上俊一『賭博・暴力・社交』講談社選書メチエ／西村清和『遊びの現象学』勁草書房／ドストエフスキー『賭博者』新潮文庫／カイヨワ『遊びと人間』岩波書店／小林章夫『賭けとイギリス人』筑摩書房／竹内久美子『賭博と国家と男と女』日本経済新聞社／尾作竹猛『賭博と拘摸の研究』新泉社／安部讓二編『日本の名隨筆 別巻56 賭事』作品社／紀田順一郎『日本のギャンブル』中公文庫／谷岡一郎『ギャンブルフィーヴァー』中公新書／長島信弘『競馬の人類学』岩波新書／川北稔編『「非労働時間」の生活史』リプロポート／多田道太郎『遊びと日本人』筑摩叢書／『太陽』一競馬は人生だ—1992年11月号／高田公理『〈遊戯化〉社会を探検する』PHP研究所／同『賭博——その技術革新・制度化・装置化』『現代文化における伝統と変容6 日本人と遊び』ドメス出版／寺山修司『競馬場で会おう』華書房／同『馬敗れて草原あり』新書館／谷岡一郎『ツキの法則』PHP新書／阿佐田哲也『麻雀放浪記』角川文庫／アルヴァレス『ザ・ギャンブラー』新潮社／植島啓司『競馬の快楽』講談社現代新書／山口瞳編『ゲームの人間』新潮社／寺山修司『誰か故郷を想はざる』角川文庫／毎日新聞社編『ギャンブル雑学事典』毎日新聞社／カイヨワ『人間と聖なるもの』せりか書房／和田静郎『ルーレット』虹有社／折口信夫『ごろつきの話』『折口信夫全集』3、中公文庫／『ちくま文学の森10 賭けと人生』筑摩書房／『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 件名4』

34. ストレンジ
ヤー (異人)

山口昌男『文化と両義性』岩波書店／『折口信夫全集』17、中公文庫／小松和彦『異人論』青土社／赤坂憲雄『異人論序説』砂子屋書房／フレイザー『金枝篇』2) 岩波文庫／網野善彦『異形の王権』平凡社／『遊行』—異人と異神—1987年2号／『季刊・自然と文化』—異人と妖怪—16号、日本ナショナルトラスト／『定本柳田國男集』1、2、4～9、12、23、25、筑摩書房／岡正雄『異人その他』言叢社／川村湊他編『訪れる神々』雄山閣／大室幹雄『滑稽——古代中国の異人たち』評論社／櫻井進『都市空間の排除と抑圧——口承文芸・文字・テクノロジー——』『日本文学』1994年3月／中沢新一『悪党的思考』平凡社／小松和彦『悪霊論——民俗社会の心性』青土社／山口昌男『文化と異人』『仕掛けとしての文化』講談社学術文庫／上野千鶴子「異人・まれびと・外来王」『現代思想』1984年4月号／住谷一彦・坪井洋文・山口昌男・村武精一『異人・児童・日本人』新曜社／小松和彦「異人と村落共同体をめぐる物語」／山折哲雄・富田登編『日本歴史民俗論集8 漂泊の民俗文化』吉川弘文館／廣川勝美『犯しと異人』人文書院／安野真『下人論 世の異人と境界』日本エディタースクール

35. 綱引き

『折口信夫全集』16、中公文庫／『日本民俗文化大系』7、9、10、小学館／『季刊・自然と文化』—東アジアの綱引—42号、日本ナショナルトラスト／『定本柳田國男集』2、3、5、10、11、13、17、19、21、25、30、筑摩書房／和田正洲「暦と年中行事」『日本民俗学大系7』平凡社／郷田洋文「年中行事の地域性と社会性」〔前出同〕／松平齊光『祭り——本質と諸相』日光書院／可児弘明他「アジアの祭りと行事」『日本民俗文化大系9』小学館／池上廣正「人と神」『日本民俗学大系8』平凡社／萩原竜夫「祭り方」〔前出同〕／本田安次「沖縄の芸能」『日本民俗学大系9』同／田原久「競技・娯楽」〔前出同〕／山口麻太郎「綱曳考」『郷土研究』六ノ二／川野正雄「綱引私考」『民俗学』四ノ十

36. 数と文化

郡司正勝『童子考』白水社／同『和数考』白水社／レヴィ＝ストロース「範疇、元素・種・数」『野性の思考』みすず書房／田坂昂『数の文化史を歩く』風濤社／北沢方邦『数の不思議 色の謎』廣済堂／岩田慶治「数と魂と場所」『カミの人類学』講談社文庫／小泉袈裟勝編『図解 単位の歴史辞典』柏書房／ジョルジュ・イフラー『数字の歴史』平凡社／矢野健太郎『数学物語』角川書店／ダンツィク『科学の言葉＝数』岩波書店／小林達雄「縄文世界における三と五＝聖数」『縄文人の世界』朝日選書／レビ・レオナルド・コナント『数の起源と発達』宝文館／安野光雅『日本の名随筆89 数』作品社／マクルーハン『メディア論』みすず書房／伊藤一男「数・三区分——空想と束縛——」『物語とメディア』有精堂／大林太良 vs 佐原真「世界のまじない」『歴博』83、1997

年7月) / 中沢新一『バルセロナ、秘数3』中央公論社 / 藤沢衛彦「数と遊戯の諸関係」『図説 日本民俗学全集』4、高橋書店) / イングリット・リーデル『絵画と象徴』青土社 / 『言語生活』—数とことば—1973年11月号 / ルディ・ラッカー『思考の道具箱』工作舎 / 八杉佳穂『古代マヤ人の天体観測 数の魔力』 / 梅棹忠夫編『異文化の探求』講談社 / ブライアン・ロトマン『ゼロの記号論』岩波書店 / 風間喜代三『数詞』『ことばの身体誌—インド・ヨーロッパの原像へ—』平凡社 / 『月刊 アドバタイジング』—「数」が描く不思議世界— 1991年5月号 / レヴィ・ブリュル『数の神秘力』『未開社会の思惟』岩波文庫) / 北神微「数の呪術」『神言 水蛭子伝説』大和書房)

37. 通過儀礼としての葬式

アリエス『死と歴史』みすず書房 / 内堀基光他『死の人類学』弘文堂 / 井上章一『霊柩車の誕生』朝日新聞社 / モラン『人間と死』法政大学出版局 / 岩田慶治他編『生と死の人類学』講談社 / 吉本隆明『新・死の位相学』春秋社 / ハンティントン『死の儀礼』未来社 / 松山利夫『ユーカリの森に生きる』NHKブックス / 井之口章次『葬儀』『伝統と現代』—儀式—6号、伝統と現代社) / 佐藤米司『葬送儀礼の民俗』岩崎美術社 / 『現代思想』—葬式のカタログ—1984年9月、青土社 / 鯖田豊之『火葬の文化』新潮選書 / 大林太良『葬制の起源』角川書店 / 井之口章次編『人生儀礼 講座日本の民俗3』有精堂 / 『葬史と宗史 竹田聰洲著作集第七巻』国書刊行会 / 水藤真『中世の葬送・墓制』吉川弘文館 / 名嘉真宜勝・恵原義盛『沖縄・奄美の葬送・墓制』明玄書房 / 新谷尚紀『日本人の葬儀』紀伊國屋書店 / 同『両墓制と他界観』吉川弘文館 / 葬送研究会編『葬送文化論』古今書院 / 森謙二『墓と葬送の社会史』講談社現代新書 / 野林正路「単一理論によるセンテンスと葬儀行動の分析」『日本語と文化・社会 ことばとシンボル』三省堂) / 井上治代『いま葬儀・お墓が変わる』三省堂 / 養老孟司・齋藤磐根『脳と墓1—人はなぜ埋葬するのか』弘文堂 / 松濤弘道『世界の葬式』新潮社 / 久野昭『葬送の倫理』紀伊國屋書店 / 山下晋司「葬制と他界観」『日本の古代13 心のなかの宇宙』中央公論社) / 藤井正雄「葬制からみた靈魂観・死後観」『大系 仏教と日本人9 民俗と儀礼』春秋社) / 須藤功『葬式 あの世への民俗』青弓社 / 八尋一郎『葬儀屋さん』葦書房 / 横山潔『葬儀屋さんが行く』KKロングセラー / 丁秀山『中国の冠婚葬祭』東方書店 / 日野啓三編『日本の名随筆55 葬』作品社 / 『国立歴史民俗博物館研究報告』第68集—死者儀礼と死の観念—1996年3月 / 『現代のエスプリ』—葬送儀礼 古代日本人の死の思想— 111、至文堂 / ヴァン・ジェネップ『通過儀礼』思泉社 / 赤田光男『祖霊信仰と他界観』人文書院 / 浅香勝輔・八木澤壮一『火葬場』大昭堂 / 矢睿『北海道の葬送・墓制』明玄書房 / 『葬送墓制研究集成』全5巻、名著出版

38. 交換と市

山口昌男『文化人類学への招待』岩波新書／栗本慎一郎『経済人類学』東洋経済新報社／北見俊夫『市と行商の民俗』岩崎美術社／東靖晋『境のコスモロジー 市・渚・峠』海鳥ブックス／『柳田國男集』14、16、筑摩書房／網野善彦『無縁・公界・楽』平凡社／網野善彦・阿部謹也『中世の発見』平凡社／阿部謹也『中世の星の下で』影書房／阿部謹也・網野善彦・石井進・樺山紘一『中世の風景』上・下 中央公論社／黒田日出男『姿としぐさの中世史』平凡社／中村勝『市場の語る日本の近代』そしえて／マリノフスキー他『市の人類学』平凡社／和田萃「市・女・チマタ」『日本の古代12 女性の力』中央公論社／『岩波講座現代社会学17 贈与と市場の社会学』岩波書店／『現代思想』—商人—1985年10月号／白石太一郎「古代の衝をめぐって」『国立歴史民俗博物館研究報告』第67集／西郷信綱『古代の声』朝日選書／小林茂文「市と喧騒——市の容容と神々の声——」『古代文学講座6 人々のざわめき』勉誠社／同「古代の市の景観——流通外の機能を中心に——」『周縁の古代史』有精堂／前田晴人「市と文学」『古代文学講座3 都と村』勉誠社／小林茂文「古代の市の景観」『周縁の古代史』／都市史研究会編『年報都市研究4 市と場』山川出版社／森浩一編『日本の古代12 女性の力』中央公論社／網野善彦『中世の世界とは何だろうか』朝日選書／同『日本中世に何が起きたか 都市と宗教と「資本主義」』日本エディタースクール出版部／渡邊昭五「聖域としての市の世俗性とその機能」『イチの歌垣』『歌垣の研究』三弥生書店／北見俊夫「市と市神」『民間伝承』十五巻、一号]

39. 文化の中の敗者 (平家物語)

山口昌男『敗者の精神史』岩波書店／武久堅「滅亡物語の構築——平家物語の全体像——」『文学』1988年3月号／『文学』—平家物語—1962年8月号／『文学』—平家物語—1953年2月号

40. 病いと医者

山口昌男『病いの宇宙誌』人間と歴史社／スーザン・ソントグ『隠喩としての病 エイズとその隠喩』みすず書房／『岩波講座現代社会学14 病と医療の社会学』岩波書店／立川昭二『病いと人間の文化史』新潮選書／同『病気の社会史』NHKブックス／武田徹「「隔離」という病い」講談社選書メチエ／波平恵美子『病と死の文化史』朝日選書／同『病気と治療の文化人類学』／マルセル・サンドライコ他『病の文化史』上・下、リプロポート／『エビステーメー』—病の空間—1979年3・4月号／黒田浩一郎「文化としての現代医療」『現代文化を学ぶ』世界思想社／清水哲郎『医療現場に臨む哲学』勁草書房／ラービッシュ「文明化の過程における健康概念と医療」『思想』1997年8月号／★『医療問題の本全情報』紀伊國屋書店を参照

41. かぐや姫

高橋亨『ファンタジーとしてのかぐや姫』『iichiko』1987年 No 5 / 梅山秀幸『かぐや姫の光と影』人文書院 / 『國文學』—竹取物語 伊勢物語 必携—1988年 5 月、学燈社 / 『日本文学』—竹取物語—1990年 5 月 / 高橋宣勝『語られざるかぐやひめ—昔話と竹取物語』大修館書店 / 三品彰英『かぐや姫の本質について—竹取物語素材の研究—』『三品彰英文集 第三巻 神話と文化史』平凡社 / 『國文學』—竹取物語 フィクションの誕生—1993年 4 月号、学燈社 / 田中元『竹取・伊勢物語の世界』吉川弘文館 / 和辻哲郎『お伽噺としての竹取物語』『和辻哲郎全集』第 4 巻、岩波書店 / 網谷厚子『物語における『竹取』—『うつほ物語』の現世の異郷について—』『物語 その転生と再生 新 物語研究 2』有精堂 / 柳田国男『かぐやひめ』『定本柳田国男集』31 筑摩書房 / 小嶋菜温子『荒らぶる光 かぐや姫から光源氏へ』『叢書史層を掘る III 王権の基層へ』新曜社 / 伊藤清司『かぐや姫の誕生』講談社現代新書 / 稲田浩二『源氏物語』の『竹取物語』観』『昔話の源流』 / 沖浦和光『竹の民俗誌』岩波新書

42. トリック スター

山口昌男『今日のトリックスター論』『知の祝祭』 / 同『道化の民俗学』新潮社 / 同『経済にとってトリックスターとは何か』『気配の時代』筑摩書房 / ヨセリ=デ=ヨンク『トリックスターの起源』『オランダ構造人類学』せりか書房 / 武田正『トリックスター』『異界さがし』置賜民俗学会 / ラディン・ケレーニ・ユング『トリックスター』晶文社 / サンドラ・ピリトン『道化の社会史』平凡社 / 小川了『トリックスター 演技としての悪の構造』 / 山口昌男『アフリカの神話的世界』岩波新書

43. 柱

(トータムポール・大黒柱・メイポール・心の御柱・うつぼばしら・人柱)

『住まいと匠』相模書房 / 山片三郎『続建築徒然草』学芸出版社 / 吉田敦彦『日本神話のなりたち』青土社 / 吉田桂二『住の神話』風山社 / 同『民家ウォッチング』東京堂出版 / 『折川信夫全集』1、2、3、20、中公文庫 / 南方熊楠『人柱の話』『南方熊楠コレクション』II、河出書房新社 / 梅原猛『石柱は宇宙のシンボル』『日本の深層』集英社文庫 / 北神徹『天の御柱』『神言 水蛭子伝説』大和書房 / 浅井晃『トータムポール世界紀行』ミリオン書房 / 山本ひろ子『心の御柱考』他『季刊・自然と文化』—柱のダイナミズム—33号、日本ナショナルトラスト / ネリー・ナウマン『天の御柱と八尋殿についての一考察』『日本神話研究』 / 平林章仁『古代伝承にみる橋と柱』『龍谷大学仏教文化研究所紀要』32集、1993年 / 同『柱の信仰と儀礼』『橋と遊びの文化史』白水社 / 濱島正士『塔における柱立て棟上』『国立歴史民俗博物館研究報告』第 4 集 / 関敬吾『柱談義』『関敬吾著作集 9』同朋舎 / 山口麻太郎『お年柱』『山口麻太郎著作集 3』佼成出版社 / ルルカー『シンボルとしての樹木』法政大学出版局 / 吉野裕子『人柱に一』『陰陽五行』

と童児祭祀』人文書院) / 保立道久「巨柱神話と『天道花』」『へるめす』1990年 No26) / 萩原秀三郎「鬼が依りつく柱」「火の柱」「青葉と葉の柱」『目でみる民俗神 1 山と森の神』東京美術) / 北神徹「天の御柱」『神言 水蛭子伝説』大和書房)

44. 杖

(ヘルメスの杖・ポセイドンの三叉杖・占杖・アルレッキーノの杖)

ウィルフォード『道化と笏杖』晶文社 / 『折口信夫全集』2、6、15、16、20、中公文庫 / 松村武雄「生杖と占杖」上・下『民俗学』第貳巻第六～七号、民俗学会) / 柳田国男「榎の杖」『柳田国男全集 5』—山島民譚集(ほか—ちくま文庫) / 『定本柳田国男集』4、5、8、20、26、筑摩書房 / 網野善彦「異形・鹿杖・門前」『異形の王様』平凡社) / 江馬務「毬杖・卯杖・卯槌・左義長と羽木板との関係について」『江馬務著作集9』中央公論社) / 乗岡憲正「杖と語部と」『古代伝承文学の研究』桜楓社) / 赤坂憲雄「杖と境界のアルケオロジー」〔山折哲雄・宮田登編『日本歴史民俗論集8 漂泊の民俗文化』吉川弘文館) / 同『境界の発生』砂子屋書房 / 池内紀「ステッキをめぐる考察—あるいは遊びについて」『現代思想』1983年2月号) / 柳田国男「杖の成長した話」『定本柳田国男集』11、筑摩書房) / 山田洋子「中世大和の非人についての考察」『年報中世史研究』4号) / 内田忠賢「『場』をめぐる想像力—古代説話にみる『国』の景観」〔杉浦芳夫編『文学 人 地域 越境する地理学』古今書院)

45. 入口

(敷居・玄関・門・境・軒端)

山口昌男「記号と境界」『文化と両義性』岩波書店 / 『折口信夫全集』10、16、中公文庫 / 宮田登「境の遊女たち」『ヒメの民俗学』青土社) / 大河直躬「住まいの人類学」平凡社 / 『定本柳田国男集』4、5、24、筑摩書房 / 小野重朗「内神」『民俗神の系譜』法政大学出版局) / 野本寛一「軒端の民俗学」白水社 / 神野善治『人形道祖神』白水社 / 飯島吉晴「竈神の象徴性」『竈神と廁神』人文書院) / 今和次郎「玄関のこと」『今和次郎集 住居論』 / 吉野裕子「家・村・都の入口」『日本古代呪術』大和書房) / 赤坂憲雄「物語の境界 / 境界の物語」『叢書 史層を掘る 1 方法としての境界』新曜社)

46. 森林

山口昌男「地球環境論のパラダイム転換」『自然と文明の想像力』島社) / 梅原猛他『ブナ帯文化』新思索社 / 『is』一樹—第15号、ポーラ文化研究所 / 柳田国男「塚と森の話」『柳田国男全集 15』ちくま文庫) / 西口親雄『ブナの森を楽しむ』岩波新書 / 同『森林保護から生態系保護へ』新思索社 / 同『森林への招待』八坂書房 / 神山恵三『森の不思議』岩波新書 / 平野秀樹『森林理想郷を求めて』中公新書 / 宇江敏勝『森のめぐみ』岩波新書 / 四手井綱英『森林』法政大学出版局 / 佐々木宏明『照葉樹林への道』NHKブックス / 只木良也『森と人間』NHKブックス / 筒井迪夫『森林文化への道』朝日選書 / フレイザー『金枝篇』1) 2)

岩波文庫／『南方熊楠コレクション』Ⅴ、河出書房新社／『季刊 自然と文化』一樹—1982夏季号、日本ナショナルトラスト／谷川健一編『森の神の民俗誌 日本民俗文化資料集成21』三一書房／宇江敏勝『山の木のひとつりごと』新宿書房／『世界の伝説3 山森』ぎょうせい／上山春平編『照葉樹林文化』中公新書／上山春平他『続・照葉樹林文化』同／齊藤正彦『森と文化』東京大学出版会／市川健夫・齊藤功『日本の森林文化』日本放送出版協会／内山節『森にかよう道——知床から屋久島まで——』新潮選書／工藤父母道『母なる森・ブナ』思索社／中尾佐助『現代文明ふたつの源流』朝日選書／今西錦司『日本の名随筆21 森』作品社／市川健夫『森と木のある生活』白水社／根深誠『ブナの木々』同／大野喜久夫『北海道の森林』北海道開発文庫／本多勝一編『知床を考えよ』晩聲社／★『植物・植物学の本来情報』紀伊國屋書店を参照／八木健三『北の自然を守る——知床・千歳川そして幌延——』北海道大学図書刊行会／ジョン・パーリン『森と文明』晶文社／梅原猛・伊東俊太郎監修『森の文明 循環の思想』講談社／安田喜憲『森の日本文化 縄文から未来へ』新思索社／ジャック・ウェストビー『森と人間の歴史』築地書館／只木良也『ことわざの生態学 森・人・環境考』丸善ブックス／市川健夫『ブナ帯と日本人』講談社現代新書／萩原秀三郎『目でみる民俗神 1 山と森の神』東京美術／『森林の百科事典』丸善

47. 鳥

アラン・ブロー『鷺の紋章学』平凡社／早川孝太郎「鳥の話」他〔『早川孝太郎全集 第四巻』未来社〕／吉野裕子「カラス祭り」〔『山の神』人文書院〕／『折口信夫全集』1、2、8、13、14、15、16、17、中公文庫／今道友信「日本の幻想」2〕〔『日本の美学』18、ペリかん社〕／『is』一鳥—13号、ポーラ文化研究所／ハドソン『鳥と人間』講談社／草野心平編『日本の名随筆2 鳥』作品社／池田真次郎『鳥の博物誌』法政大学出版局／平林章仁『鹿と鳥の文化史』白水社／新谷尚紀「人と鳥のフォークロア」〔『ケガレから神へ』木耳社〕／篠原徹『自然と民俗 心意のなかの動植物』日本エディタースクール出版部／長沼武『山の動物民俗12』ほおずき書館／『別冊歴史読本 鳥の日本史』1989年11月特別号／上村くにこ『白鳥のシンボリズム——神話・芸術・エロスからのメッセージ』御茶の水書房／『鳥・とり事典』大修館書店／飯野徹雄『フクロウの文化誌——イメージの変貌』中央公論社／柳田国男『野鳥雑記』八坂書房／尾崎暢映『鳥の物語』〔『古代文学講座2 自然と技術』勉誠社〕／中川裕「動物神の自叙——アイヌの神謡——」前出同／谷川健一『神・人間・動物』平凡社／ルルカー『鷺と蛇 シンボルとしての動物』法政大学出版局／島田能里子「和歌に詠まれた『鳥』とその変遷」〔『立教大学日本文学』1979年42号〕／★『動物・動物学の本来情報』紀伊國屋書店を参照／吉成直樹「鳥霊信仰と幼児葬法」〔『俗信のコスモロジー』白水社〕／杉田英明『動物誌と動物譚 東洋文庫ふしぎの国11』平凡社

／スティーブン・フェルド『鳥になった少年』平凡社／ロイ・ウィリス『人間と動物』紀伊國屋書店／渡邊昭五「他界より来たる鳥」〔『歌垣の研究』三弥生書店〕／五味文彦『絵巻で読む中世』ちくま新書／中西進「ユーラシア大陸の伝説——鳥と蛙」(カセット)大修館書店／山本七平編『漢字文化を考える』大修館書店

48. 猿

山口昌男他座談会「『河童駒引考』を読む」〔『無限大』1985年No68、日本アイ・ピー・エム株式会社〕／大貫恵美子『日本文化と猿』平凡社／石上七鞘「猿の伝承」〔『水の伝承』新公論社〕／石田英一郎『新版河童駒引考』東京大学出版会／柳田国男「猿廻しの話」〔『柳田国男全集5』ちくま文庫〕／廣瀬鎮『猿』法政大学出版局／西田利貞他編『サルの世界文化誌』平凡社／立花隆『サル学の現在』平凡社／★『動物・動物学の本全情報』紀伊國屋書店を参照／マーカタンテ『空想動物園』法政大学出版局／泉鏡花「化鳥」／秦恒平『猿の遠景 絵とせとら文化論』紅書房／飯田道夫『猿』よもやま話——サルと日本の民話』評言社／同『見ザル聞かザル言わザル——世界三猿源流考』三省堂／『折口信夫全集』1、2、7、中公文庫／村崎義正『猿まわし上下ゆき』筑摩書房／杉田英明編『動物誌と動物譚 東洋文庫ふしぎの国11』平凡社／『世界の伝説 4 動物・植物』ぎょうせい／五味文彦『絵巻で読む中世』ちくま新書／山口昌男『河童のコスモロジー 石田英一郎の思想と学問』講談社学術文庫

49. 十二支

(インターネット
でデータ蒐集)

南方熊楠『十二支考』東洋文庫／吉野裕子『十二支』人文書院／大場磐雄『十二支と十二獣』北隆館／諸橋轍次『十二支伝説』大修館書店／大場磐雄『十二支のはなし』ニューサイエンス社／林義勝『十二支伝説』PHP／吉野裕子『山の神』人文書院／奥本大三郎『干支セトラ、etc.』／竹内照夫「十支十二支の起源と伝承」〔『歴史読本臨時増刊 万有こよみ百科』1973年〕／西岡秀雄『東・西・南・北・右・左』北隆館／吉野裕子『陰陽五行と童児祭祀』人文書院／山中襄太『語源十二支物語』大修館書店／柳宗玄『十二支のかたち』同時代ライブラリー、岩波書店

50. 地震・津波

(なまず・災害の
文化史)

アウエハント『絵巻』せりか書房／笹本正治『中世の災害予兆』吉川弘文館／大林太良『神話の話』講談社学術文庫／力武常次『地震予知』中公新書／尾池和夫『中国の地震・日本の地震』東方書店／『太陽』一大地震—1977年2月号／『寺田寅彦全集』4、17、岩波書店／武者金吉『日本地震史料』毎日新聞社／稲見悦治『都市の自然災害』古今書院／江馬務「災異の種類と沿革」〔『江馬務著作集6』中央公論社〕／★『地球自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／宮田登監修『絵巻 震災と日本文化』里文出版／力武常次監修『近代世界の災害』国会資料編纂会／トム・メラム他『荒ぶる地球自然災害のすべて』岩波書店

51. 楽器

(弦・管・パーカッション等)

樋口覚『三絃の誘惑 近代日本精神史覚え書』人文書院／藤井知昭「音の文化とシンボル——民族の楽器は語る」『is』—音楽—第9号、ポラ文化研究所／上尾信也『歴史としての音』柏書房／川田順造『聲』筑摩書房／吉川周平「太鼓打ちの動作と舞踊」『身ぶりと音楽』東京書籍／安藤由典『楽器の音色を探る』中公新書／西原稔『ピアノ誕生 楽器の向こうに「近代」が見える』講談社メチエ／皆川達夫『大図説 世界の楽器』小学館／田辺尚雄『日本の楽器』柏書房／今福龍太「音と身体のエスノセオリーへ」『言語生活』1987年12月号／アラン・P・メリアム『音楽人類学』音楽之友社／郡司すみ『世界楽器入門』朝日選書／小泉文夫『日本の音』平凡社／国立歴史民俗博物館編『日本楽器の源流』第一書房／櫻井哲男・山口修編『音の今昔』弘文堂／赤井励『オルガンの文化史』青弓社／奥田恵二『フルートの歴史』音楽之友社／小西龍郎『音のアルカディア』／木戸敏郎編『日本音楽叢書 1 雅楽』音楽之友社／同編『日本音楽叢書 2 伶楽』同／金子量重編『日本とアジア＝生活と造形 4 音楽と芸能』学生社／本田安次編『講座日本の民俗 8 芸能』有精堂／山西龍郎『音のアルカディア』ありな書房

52. 雨・嵐と文化

(どのように取り上げられているか)

高谷重夫『雨の神——信仰と伝説』岩崎美術社／『定本柳田國男集』2、3、4～6、8、11、21～23、25、31、筑摩書房／中村汀女編『日本の名隨筆43 雨』作品社／『折口信夫全集』2、6、9、13、16、29／宮田登「雨乞いと供犠」「天神＝雷神の祭祀」『ケガレの民俗誌』人文書院／野村純一編『日本伝説大系』3、みすず書房／フレイザー「降雨の呪術的調節」『金枝篇』1) 岩波文庫／関敬吾「山と雨乞」『関敬吾著作集 9』同朋舎／★『地球・自然環境の本全情報』紀伊國屋書店を参照／『言語生活』—雨の記号学—1987年6月号／小松和彦「雨乞いと生贄」『説話の宇宙』人文書院／小林享「雨の風景との対話」『移ろいの風景論』鹿島出版／吉野正敏『風の世界』東京大学出版会／『捜神記』〈雨神〉平凡社／『本田安次著作集12』錦正社／大谷東平『台風の話』岩波新書

53. 線・糸・紐

(あやとり・結界・注連縄・からくり等)

山口昌男 vs 赤瀬川原平「都市生活にみる『結び』考」『季刊 まち・すまい』1997No56／額田巖『ひも』法政大学出版局／同『結び』同／エリアーデ「〈縛める神〉と結び目のシンボリズム」『エリアーデ著作集』4、せりか書房／道明新兵衛『ひも』學生社／『日本の美術23 結髪と髪飾』至文堂／額田巖『日本の結び』講談社／藤原覚一『日本の結び』築地書館／若尾五雄「あやとり」『河童の荒魂』堺屋図書／額田巖『結び目の謎』中公新書／垂水稔『結界の構造』名著出版／丸山久子「童戯」(あやとり)『日本民俗学大系 9』平凡社／秋道智彌『なわばりの文化史』小学館／宇野邦一「美術・線の闘争」『意味の果てへの旅』青土社／カンディンスキー『パウハウス叢書 9 点と線から面へ』中央公論美術出版／結城孫三郎『糸あやつり』青蛙房／萩原秀三郎『目でみ

る民俗神3 境と辻の神』東京美術／額田巖『結び方の研究』創元社／同『結びの文化』東洋経済新報社／樋口清之『帯の歴史』装具きもの学院／藤原覚一『結び方手帖』築地書館／江馬務『有職故実』日本文学社／渋沢敬三『日本常民生活絵引』角川書店／イングリット・リーデル「線」『絵画と象徴』青土社／鶴岡真弓「組紐のシンボリズム」他『ケルト／装飾的思考』筑摩書房／北神徹『神言 水蛭子伝説』大和書房

54. 台所・竈

(かまどの女神
ヘスティア)

ハリスン『台所の社会史』法政大学出版局／古島敏雄『台所用具の近代史』有斐閣／松山利夫『精霊たちのメッセージ』角川選書／筑土鈴寛『復古と叙事詩』青磁社／飯島吉晴『竈神と厠神』人文書院／大藤時彦「家の神としての火の神」『民間伝承』10巻六号／和歌森太郎「カマド神信仰」『和歌森太郎著作集10』弘文堂／坪井洋文「竈神考」『日本民俗学』二巻四号／同「家の神の重層性」『日本民俗学』三巻三号／宮田登「田の神とカマド神」『女の霊力と家の神』人文書院／黄川田啓子「竈神信仰の研究」『東北民俗』五輯、1970年／『is』一火一21号、ポーラ文化研究所／山口昌伴「台所戦後史」『上野千鶴子編『色と欲』小学館』／『定本柳田國男集』1～3、5、6、8、14、15、21、24、27、筑摩書房／モース『日本その日その日』1～3、平凡社／小菅桂子『にっぽん台所文化史』雄山閣／小野重朗『民俗神の系譜』法政大学出版局／伊藤清司「日本と中国の竈神伝承」『昔話 伝説の系譜』第一書房／バシュラール『火の精神分析』せりか書房／折口信夫「盆踊りの話」『折口信夫全集第二巻』中公文庫／永尾龍造『支那の民俗』磯部甲陽堂／坪井洋文『日本民俗学大系』第六巻／柳田國男「火の昔」『定本柳田國男集』21、筑摩書房／大林太良編著『日本古代文化の探究・火』社会思想社／フレーザー『火の起源の神話』角川文庫／郷田洋文「いろりと火」『日本民俗学大系6』平凡社／山口麻太郎「イロリとクト」『山口麻太郎著作集3』佼成出版社／『火の生活文化 火の博物館「火」』KBI選書／萩原秀三郎『目でみる民俗神2 豊穰の神と家の神』東京美術／飯田道夫『庚申信仰』人文書院／森隆男『住居空間の祭祀と儀礼』岩田書院／内田賢作「埼玉のカマド荒神信仰について」『日本民俗学』135号、1981年／安野真幸「太郎冠者 異人としての下人」『下人論』日本エディタースクール／岡正雄「産屋・他屋・寝屋・喪屋・竈屋・隠居屋など」『日本民俗学大系 月報第二号』平凡社／内藤正敏「ヒョウトク譚のヘソに隠された金属伝承」『日本昔話研究集成 第1巻 昔話研究の課題』名著出版／鈴木正彦「歳の夜の訪客」『日本昔話研究集成 第3巻 昔話と民俗』同／★昔話の「ヒョウトク」参照

55. 外国語とは何か

鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波書店／現代新書編集部『外国語をどう学ぶか』講談社現代新書／佐々木瑞枝『外国語としての日本語』講談社現代新書／澤田昭夫『外国語の習い方』講談社学術文庫／岩崎友吉『外

国語を学ぶたのしみ』玉川選書／財団法人語学教育研究所編『随筆 日本人と外国語』開拓社／杉本つとむ『外国人と日本語 日本語講座6』桜楓社／辻邦生編『外国語 ABZ』新潮社／千野栄一『外国語上達法』岩波新書／鈴木孝夫『武器としての言葉——茶の間の国際情報学』新潮選書／カトー・ロンブ『わたしの外国語学習法』創樹社／小林道憲『異国への憧憬——日本古代の外国観』『日本及日本人』1993年1月号／ジュリア・クリステヴァ『外国人 我らの内なるもの』法政大学出版局／服部品子『なんで英語やねん』山と溪谷社／『言語生活』—外国語の学び方—1985年4月号／『言語生活』—外国語教育—1973年1月号／田辺保『なぜ外国語を学ぶか』講談社現代新書／杉本つとむ『外国語と日本語』桜楓社

56. 留学

磯田光一『遊民』的知識人の水脈』『磯田光一著作集5』小沢書店／安藤彦太郎『中国語と近代日本』岩波新書／藤井省三『東京外語支那語部』朝日選書／加藤行立『現代留学事情』丸善ライブラリー／板坂元編『日本の名随筆 別巻31』作品社／小草『日本留学1000日 北京っ娘の東京体験』東方書店／黄尊三『清国人日本留学日記一九〇五～一九一三』東方書店／桑本務『大戦下の欧州留学生生活』中公新書／青柳清孝『黒人大学留学記』中公新書／阿部良雄『若いヨーロッパ パリ留学記』中公文庫／大庭みな子『津田梅子』朝日新聞社／小泉タエ『留学生 小泉信三の手紙』文藝春秋／渡部昇一『ドイツ留学』上・下、講談社現代新書／岩男寿美『留学生が見た日本』サイマル出版会／『100人のカナダ留学記』文理閣／浅野慎一『日本で学ぶアジア系外国人』大学教育出版／各務行雄『アメリカ留学に夢を求めて』近代文藝社／川島芳文『アメリカ留学体験記』近代文芸社／松本淳編『留学 日本の教育のすきまを埋める』エイデル研究所／権藤与志夫編『世界の留学——現状と課題』東信堂／栖原暁『アジア人留学生の壁』NHK ブックス／石附実『近代日本の海外留学』中公文庫／渡辺実『近代日本海外留学生史』／手塚晃編『明治期海外渡航者総覧』／★『月刊 留学と会話』バックナンバー図書館に所蔵／園田英弘『留学 文明摂取のための運動』『現代日本文化における伝統と変容7 日本人にとっての外国』ドメス出版』／大橋敏子他『外国人留学生とのコミュニケーション・ハンドブック——トラブルから学ぶ異文化理解』アルク

57. 茶と喫茶 (コーヒー・紅茶)

村井康彦『茶の文化史』岩波新書／角山二郎『茶の世界史』中公新書／小野二郎『紅茶を受皿で』『紅茶を受皿で』晶文社』／竹内実『中国喫茶詩話』淡交社／守屋毅『喫茶の文明史』淡交社／中村羊一郎『茶の民俗学』名著出版／ピーター・ミルワード『お茶の巡礼』河出書房新社／『コーヒーという文化』柴田書店／狐野利久『喫茶・飲酒の習慣と文化』『比較文化入門』北星堂書店』／ピーター・ミルワード『お茶とミサ』

PHP／和田義雄『札幌喫茶昭和史』沖積舎／角山榮『辛さの文化甘さの文化』同文館／同『茶の世界史』中公新書／矢沢利彦『東西お茶交流考』東方書店／同『東のお茶 西のお茶』研文出版／吉村亨他『日本の茶 歴史と文化』淡交社／相松義男『紅茶と日本茶』恒文社／荒勝淑子『茶の考古学』日本エディタースクール／木津治『茶の季節』近代文芸社／左能典代『茶と語る』NTT出版／橋本実『茶の起源を探る』淡交社／小川後楽『茶の文化史』文一総合出版／周達生『お茶の文化史』松崎芳郎編著『年表 茶の世界史』八坂書房／守屋毅『お茶のきた道』日本放送協会出版／同編『茶の文化 その総合的研究』淡交社／桑田忠親『茶道の歴史』講談社学術文庫／『紅茶百年史』全日本紅茶振興会／谷本陽蔵『お茶のある暮らし』草思社／同『中国茶の魅力』柴田書店／岡倉天心『茶の本』角川文庫／波多野公介『おいしいお茶がのみたい』PHP／菊盛英夫『文学カフェ』中公新書／小川八重子『暮しの茶』平凡社／同監修『くつろぎの茶』朝日新聞社／松下智『中国の茶』河原書店／同『日本名茶紀行』雄山閣／同『茶の博物誌』東京書房社／同『日本茶の伝来』淡交社／出口保夫『英国紅茶への招待』PHP／同『英国紅茶の話』東京書籍／小国伊太郎編著『お茶は最高の健康食』ごま書房／村松敬一郎他編著『そろそろお茶の時間』ぎょうせい／同編『茶の科学』朝倉書店／滝口明子『英国紅茶論争』講談社選書メチエ／小野二郎『ペーコン・エッグの背景』晶文社／春山行夫『紅茶の文化史』平凡社／小林章夫『コーヒー・ハウス』駸々堂出版株式会社／臼井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る——近代市民社会の黒い血液』中公新書／ジョオン・サークス『消費社会の誕生——近世イギリスの新企業』東京大学出版会／エリアス『文明化の過程——ヨーロッパ上流階級の風俗の変遷』全二冊、法政大学出版局／ヴォルフガング・シヴェルプシュ『楽園・味覚・習性——嗜好品の歴史』法政大学出版局／荒木安正『紅茶の世界』柴田書店／ハトリックス『コーヒーとコーヒーハウス』同文館／土屋守『紅茶のある風景 暮らしてみたイギリス紅茶の世界』曜曜社出版／『珈琲紀行』全日本コーヒー協会／『日本コーヒー史』上・下、全日本コーヒー商工組合連合会／磯淵猛『紅茶の国 紅茶の旅』筑摩書房／角山榮『紅茶の文化史』『緑茶の社会史』『辛さの文化 甘さの文化』同文館

58. 時間と空間

『日本の美学』—空間—第16号、ペリかん社／ヴァラニャック『ヨーロッパの庶民生活と伝承』白水社／植田重雄『ヨーロッパ歳時記』岩波書店／福井憲彦『時間と習俗の社会史』新曜社／プーレ『人間の時間の研究』筑摩書房／真木悠介『時間の比較社会学』岩波書店／『日本の美学』—時間—第19号、ペリかん社／カーン『時間の文化史』法政大学出版局／ヴィットロフ『時間 その性質』同／戸井田道三『能——神と乞食の芸術』せりか書房／『エリアーデ著作集』4、せりか書房／『エリアーデ著作集』3、せりか書房／ジャック・アタリ『時間の歴史』原書房／[is]

一時—17号、ポーラ文化研究所／加藤秀俊『日常性の社会学』角川文庫／『エビステマー』—空間—1977年7、朝日出版／海野弘『空間の神話学』造形社／矢部眞和編『生活時間の社会学 社会の時間・個人の時間』／『岩波講座 現代社会学6 時間と空間の社会学』岩波書店／エリ阿斯『時間について』法政大学出版局／宮田登『日和見 日本王権論』平凡社／『現代思想』—空間の記号学—1982年7月号／『言語生活』—時間—1985年6月号／藤井治彦編『空間と英米文学』英宝堂／中埜肇『空間と人間』中公新書／木村敏『時間と自己』同／マイケル・オマリ『時計と人間 アメリカの時間の歴史』晶文社／E・リーチ『人類学再考』新思索社／石森秀三「サタワル島における空間の象徴性」〔松原正毅編『人類学とは何か』日本放送出版協会〕／イングリット・リーデル「画面あるいは空間の象徴性」〔『絵画と象徴』青土社〕／『現代詩手帖』—空間の異相—1975年7月号

59. 暦

永田久『年中行事を「科学」する』日本経済新聞社／同『暦と占いの科学』新潮社／内田正男『暦の語る日本の歴史』そしえて／岡田敏郎『明治改暦』大修館書店／渡邊敏夫『暦入門』雄山閣／ホグベン「暦の出現」〔『コミュニケーションの歴史』岩波文庫〕／大島健彦編『年中行事 講座日本の民俗6』有精堂／宮田登他『日本民俗文化大系9 暦と祭事』小学館／佐藤次高「暦」〔『シリーズ世界史への問い2』岩波書店〕／広瀬季雄『日本史小百科5 暦』近藤出版社／和歌森太郎「年中行事の歴史的位相」〔『和歌森太郎著作集12』弘文堂〕／西角井正慶『年中行事辞典』東京堂出版／『定本柳田國男集』2、5、6、7、10、12、13、15、筑摩書房／宮田登「生活の中の暦」〔『日和見 日本王権論』平凡社〕／井本英一『習俗の始原をたずねて』法政大学出版局／宮田登他監修『仏教行事歳時記』1月、12月、全12巻、第一法規／『歴史読本臨時増刊「万有こよみ百科」』／中牧弘允「暦」〔井上忠司編『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版〕／渡邊敏夫『日本の暦』雄山閣／岡田芳朗『日本の暦』新人物往来社／小島麗逸他編『「こよみ」と「くらし」——第三世界の労働リズム——』アジア経済研究所／大東文化大学東洋研究所編『年代学（天文・暦・陰陽道）の研究』／時研究会編『時の科学』コロナ社／藤沢衛彦「暦と迷信」〔『図説日本民俗学全集3』高橋書店〕／柳田国男『年中行事覚書』〔『定本柳田國男集』13、筑摩書房〕／和田正洲「暦と年中行事」〔『日本民俗学大系7』平凡社〕／折口信夫『年中行事』〔『折口信夫全集』15、中公文庫〕／『言語』—暦の記号学—1991年12月号／寺井美奈子「改暦の後遺症を按ずる——太陽暦採用百二十年目にあたって——」〔『日本及日本人』1993年陽春号〕／廣末保「暦の外に出た遊び」〔『現代思想』1983年2月号〕／ゲースマン『フランスの祭りと暦』原書房／チャールズ・カイトリー『イギリス歳時記』大修館書店／中村喬『中国の年中行事』平凡社／同『続中国の

年中行事』同／『言語生活』一暦—1977年1月号／大島良行『アメリカン・ホリデー その神話と現実』東書選書／井上忠司他『現代家庭の年中行事』講談社現代新書／石井研士『都市の年中行事——変容する日本人の心性』春秋社／端信行『暦と自然観』『民族学の旅』講談社／八杉佳穂『古代マヤ人の時空認識』〔松原正毅編『人類学とは何か』日本放送出版協会〕

60. 橋 (境界・結界)

平林章仁『橋と遊びの文化史』白水社／保田與重郎『日本の橋』〔保田與重郎全集 第4巻』講談社〕／上田篤『橋と日本人』岩波新書／小山田了三『橋』法政大学出版局／山本宏『橋の歴史』森北出版／宮田登『橋と境』『妖怪の民俗学』岩波書店〕／『季刊 自然と文化』一橋—1984年夏季号、日本ナショナルトラスト／服部幸雄『橋・道』〔『is』27号、ポーラ文化研究所〕／網野善彦他『天の橋・地の橋』福音館／高橋昌明『境界の祭祀』〔『日本の社会史』〕／赤坂憲雄『境界の発生』砂子屋書房／ハインリッヒ編著『橋の文化史』鹿島出版会／E・T・ホール『文化としての時間』TBSブリタニカ／『太陽』一橋の旅—1985年10月号／小林忠雄『七つの橋渡り——現代女性の不安——』〔『歴博』83、1997年7月〕／飯島吉晴『橋の民俗』〔『竈神と廁神』人文書院〕／安藤徹『橋・峠・川・水』〔『物語とメディア 新 物語研究1』有精堂〕／柳田国男『橋の名と伝説』〔『定本柳田國男集』5、筑摩書房〕／折口信夫『熟語構成から観察した語源論の断簡』〔『折口信夫全集』19、中公文庫〕／ベルト・ハインリッヒ編著『橋の文化史』鹿島出版会／山本宏『橋の歴史』森北出版／かたつばし委員会編『橋ものがたり こは渡りたい名橋100選と橋の文化史』交通公社／土田作治郎・渡辺直之『日本の石橋』平凡社カラー選書／上田篤『橋と日本人』岩波新書／川田忠樹『歴史のなかの橋とロマン』技報堂／吉成直樹『橋を買う』民俗』〔『俗信のコスモロジー』白水社〕／小林豊『橋の旅』／小野重朗『産育儀礼にみる試練と命名』〔『日本民俗学』1982年、130〕／泉鏡花『化鳥』／赤坂憲雄『物語の境界／境界の物語』〔『叢書史層を掘る1 方法としての境界』新曜社〕／『神道集』〈橋姫〉東洋文庫・平凡社／萩原秀三郎『目でみる民俗神3 境と辻の神』東京美術／北見俊夫『川の文化』日本書籍／網野善彦『関渡津泊、橋と勸進上人』〔『増補 無縁・公界・楽』平凡社選書〕／垂水稔『結界について』(I)(II)〔『国立民族学博物館研究報告』1978年3巻1号、1978年3巻4号〕／『縛める神』と結び目のシンボリズム』〔『エアード著作集 第4巻』せりか書房〕

61. 船と港

『季刊 自然と文化』一和船—1982年春季号、日本ナショナルトラスト／北見俊夫『日本海上交通史の研究』法政大学出版局／村瀬正章『近世海運史の研究』同／杉山宏『日本古代海運史の研究』同／須藤利一編『船』同／宮本常一編著『海の道 旅の民俗と歴史10』八坂書房／渡辺信

夫『海からの文化 みちのく海運史』河出書房新社／新井洋一『港からの発想』新潮選書／社団法人日本港湾協会『日本港湾史』／荒巻季『北の港町小樽』古今書院／『海と列島文化』全10巻、別巻1、小学館／『図説人物 海の日本文史1』毎日新聞社／『日本全国みなと事典1995』未来社／福永光司『「馬」の文化と「船」の文化』人文書院／和辻春樹『船』明治書院／土井全二郎『客船がゆく 海・人・船のものがたり』情報センター出版局／『一億人の昭和史』毎日新聞社／住田正一『海運盛衰記』創元社／北海道新聞社編『はこだて歴史散歩』同社刊／石垣福雄『新函館物語』中西出版／竹内良夫『港をつくる』新潮選書／大林太良編『日本古代文化の探究 船』社会思想社／網野善彦他監修『よみがえる中世8 埋もれた港町・草戸千軒・鞆・尾道』平凡社／網野善彦・森浩一『馬・船・常民 東西交流の日本列島』河合出版／網野善彦他『海と列島文化1 日本海と北国文化』小学館／網野善彦『海と列島の中世』日本エディタースクール出版部／網野善彦・石井進他『沈黙の中世』平凡社／宮本常一『日本民衆史3 海に生きる人びと』未来社／網野善彦『日本社会再考——海民と列島文化——』小学館

62. 流行と ファッション

山口昌男『記号と境界』〔『文化と両義性』岩波書店〕／同『流行論』〔週刊本』朝日出版社〕／『岩波講座現代社会学21 デザイン・モード・ファッション』岩波書店／『現代のエスプリ』—流行—No171、至文社／鷲田清一『モードの迷宮』中央公論社／同『ファッションという装置』河合文化研究所／同『夢のもつれ』北宋社／『着る 平凡社カルチャー today』平凡社／マックス・フォン・ペーン『モードの生活文化』1・2、PARCO出版／小山栄三『ファッションの社会学』時事通信社／春山行夫『おしゃれの文化史』1～3、平凡社／アンダーソンブラック『ファッションの歴史』上・下、PARCO出版／北山晴一『おしゃれと権力』三省堂／ピセッキー『モードのイタリア史 流行・社会・文化』平凡社／川北稔『洒落者たちのイギリス史』平凡社／『ファッションと風俗の七十年』婦人画報社／『アクロス』—混迷するファッション— 1992年7、PARCO／海野弘『流行の神話—ファッション・映画・デザイン』フィルムアート社／多田太郎編『流行の社会学』世界思想社／森英恵『ファッション』岩波新書／山田登世子『モードの帝国』筑摩書房／同『誘惑ゲーム』〔『零の修辞学』リプロポート〕／河原和枝『『私らしさ』の神話——ファッションという制度——』〔『現代文化を学ぶ』世界思想社〕／R・バルト『モードの体系』みすず書房／ボードリヤール『消費社会の神話と構造』紀伊國屋書店／S・ユーエン他『欲望と消費——トレンドはいかに形づくられるか』晶文社／S・ユーエン『浪費の政治学』晶文社／A・リュリー『衣服の記号論』文化出版局／G・マクラッケン『文化と消費とシンボルと』勁草書房／鷲田清一『モード迷宮』中央公論社／千村典生『戦後ファッションストーリー』平凡社／能澤慧子『モードの社会史——西洋近代

服の誕生と展開』有斐閣／ジラール『欲望の現象学』法政大学出版局／千村典生『ファッションの歴史』平凡社／ブリュノ・デュ・ロゼル『20世紀モード史』同／能澤慧子『二十世紀モード』講談社選書メチエ

63. 猿岩石

『猿岩石』太田出版／『猿岩石裏日記』同／『猿岩石日記』1、2、日本テレビ

64. 庭

高山宏『庭の綺想学』ありな書房／鈴木誠『『庭』の造園デザイン』〔『日本の美学』第14号、ペリカン社〕／ヴォルフガング・タイヒェルト『象徴としての庭園 ユートピアの文化史』青土社／進士五十八『日本庭園の空間』〔『日本の美学』第16号、ペリカン社〕／鈴木博之「六義園八十八境の生成 庭園における〈型〉の意味」〔『日本の美学』第13号〕／佐野みどり「花の庭」〔『日本の美学』第3号、ペリカン社〕／森蔵『日本史小百科19 庭園』近藤出版社／『is』一庭園一26号、ポーラ文化研究所／野田正彰『庭園に死す』春秋社／岡崎文彬『造園の歴史』同朋舎出版／同『日本の古庭園』同／野村勘治『旅に出たら寄ってみたい庭30』小学館／明石散人・佐々木幹雄『宇宙の庭 龍安寺石庭の謎』講談社／円地文子編『日本の名随筆 6 庭』作品社／白幡洋三郎『大名庭園 江戸の饗宴』講談社選書メチエ／『太陽』一名庭紀行一 1977年10月号／『太陽』一日本の庭一 1976年8月号／『太陽』一新・名庭の旅一 1989年10月号／『太陽』一庭園の美学一 1984年8月号／『太陽 庭と家シリーズ』I～IV、平凡社／リハチョフ『庭園の詩学』平凡社／西村保五郎『北海道の庭園』ミニコミセンター／吉川需『古庭園のみかた 美と構成』第一法規株式会社／丸山宏『近代日本公園史の研究』／木戸敏郎「日本文化再発見試論」〔『日本及日本人』1992年12月～〕／横山正『数寄屋逍遙 茶室と庭の古典案内』彰国社／網野善彦「庭」〔『中世的世界とは何だろうか』朝日選書〕／渡辺一民「園芸と築城術 林達夫『作庭園』をめぐる」〔『文学』1986年11月号、1987年1月号〕／川崎寿彦『楽園と庭』中公新書／同『マーヴェルの庭』研究社出版／林達夫「私の植物蒐集——『実際園芸』主幹に答えて——」〔『林達夫著作集4』平凡社〕／同「庭園の不在地主」〔前出同〕／同「作庭記」〔前出同〕／同「植物園」〔前出同〕／同「国立植物園」〔前出同〕／M・フランシス、R・T・ヘスター Jr 編『庭の意味論』鹿島出版会／チャールズ・W・ムーア他『庭園の詩学』同／大橋治三・齊藤忠一『ヴィジュアル 日本庭園鑑賞事典』東京堂出版／齊藤忠一『日本庭園集成』全6巻、小学館／同『探訪日本の庭』全12巻、小学館／齊藤忠一他『日本の庭園美』全10巻、集英社／齊藤忠一『名園を歩く』全8巻、毎日新聞社／カレル・チャベック『園芸家の一年』恒文社

65. 「捨てる」

(コミュニケーションからコミュニケーション)

中村雄二郎「ブリコラージュ——蒐めるということ」〔中村雄二郎・山口昌男『知の旅への誘い』岩波新書〕／唐木順三『無常』筑摩書房／ロジェ・アンリ・ゲラン『トイレの文化史』ちくま文庫／ノーマン・ブラウン「排泄的ヴジョン」『エロスとタナトス』竹内書店〕／金塚貞文『人工身体論 あるいは糞をひらない身体の考察』青弓社／南方熊楠『廁神』『南方熊楠コレクション』II、河出書房新社〕／若尾五雄『廁』『廁鬼』『河童の荒魂』堺屋図書〕／桐生操『やんごとなき姫君たちのトイレ』TOTO出版／小西捷監修『スカラベの見たもの』同／ヴァン・デア・リン『トイレからの発想』講談社／古賀正憲『便所の中で』徳間コミュニケーションズ／山路茂則『トイレ考現学』啓文社／李家正文『廁(加波夜)考』六文館／同『廁風土記』東和社／同『古代廁攻』相模書房／同『泰西中国トイレット文化考』雪華社／同『糞尿と生活文化』泰流社／高野六郎『便所の進化』厚生閣／西岡秀雄『トイレットペーパーの文化誌』論創社／楠本正康『こやしと便所の生活史』／日本トイレ協会編『トイレの研究』地域交流出版／TOTO文化情報センター編『女たちのトイレ』泰流社／『伝統と現代』一世捨て—16号、伝統と現代社／佐藤正英「隠遁者とその周辺」『大系 仏教と日本人6 遊行と漂泊』春秋社〕／同『隠遁の思想』東京大学出版会／目崎徳衛『漂泊』角川選書／同『出家遁世』中央公論社／櫻井あかね『ごみ』から見えてくる現代社会ニッポン〔上野千鶴子編『色と欲』小学館〕／寄本勝美『ごみリサイクル』岩波新書／鳴海邦碩『穢なき生活——除去・分離装置系としての都市』〔井上忠司編『現代日本文化における伝統と変容4 都市のフォークロア』ドメス出版〕／高橋康夫『洛中洛外——環境文化の中世史』平凡社／湯浅赳男『環境と文明』新評論／礪川金次『糞尿の民俗学』批評社／吉野裕子「廁神」〔『神々の誕生』岩波書店同時代ライブラリー〕／萩原秀三郎『目でみる民俗神2 豊穰の神と家の神』東京美術／南方熊楠『廁神』『南方熊楠全集』2、平凡社

66. 「盗む」

泥棒研究会編著『盗みの文化誌』青弓社／吉成直樹「盗む論理・盗まれる論理——作物盗みの俗信を中心に」〔『俗信のコスモロジー』白水社〕／笠松宏至「盗み」〔網野善彦他『中世の罪と罰』東京大学出版会／高桑守史「儀礼的盗みとムラ」〔『日本民俗文化体系8 村と村人——共同体の生活と儀礼』小学館〕／ホブズボーム『匪賊の社会史』みすず書房／野村雅一「ヨーロッパの伝承——シチリアの山賊伝承——」〔『民話と伝承』朝日新聞社／スタンダール『カストロの尼』岩波文庫／網野善彦『悪』の諸相 緊張する社会〕〔『海と列島の中世』日本エディタースクール出版部〕／野尻抱影『大泥棒紳士館』工作舎／神山圭介『盗賊の風景』

67. 異類婚譚

ジャン・マルカル『メリュージュ』大修館書店／クードレット『メリュージュ物語』青土社〔ジャック・ルゴフ他「母と開拓者としてのメリュ

ジーヌ」付) / クードレット『妖精メリュジーヌ』現代教養文庫/ベック
ツィ・ハーン『美女と野獣』新曜社/雨宮裕子『異類婚姻譚の構造』『日
本昔話研究集成1 昔話研究の課題』名著出版/関敬吾『日本昔話大成』
2、角川書店/『関敬吾著作集6 比較研究序説』同朋舎出版/ドンド
『人魚伝説』創元社/高橋康雄『美女と野獣——異類婚姻譚の起源』『札幌
大学総合論叢』1999年第7号]

68. 教具・教室・
子供の文化
の比較
(聞き書きする
とよい)

河内紀『ベニアの学校』晶文社/上笹一郎『日本子育て物語』筑摩書房
/唐澤富太郎『図説明治百年の児童史』上・下、講談社

69. 温泉

クルーティエ『水と温泉の文化史』三省堂/坂坂耀子編『江戸温泉紀行』
平凡社/大石真人編『全国温泉辞典』東京堂出版/池内紀編著『西洋温
泉事情』鹿島出版会/落合敏郎『温泉による町おこし村おこし』リーベ
ル出版/山下清『伊香保へ行って温泉に入ろう』〔ちくま哲学の森7『驚
くこころ』筑摩書房〕/田山花袋『温泉めぐり(抄)』〔モダン都市文学
5『観光と乗物』平凡社〕/山村順次著『世界の温泉地——温泉リゾ
ートの発達と現状』大明堂/神崎宣武・山本鉦太郎編『温泉大百科1~3』
ぎょうせい/『五十年のあゆみ』皆生温泉観光/神崎宣武・山本鉦太郎
監修『湯けむりの里』ぎょうせい/オットー・グラウス著『ヨーロッパ
の温泉保養地』集文社/津本信博編著『近世紀行日記文学集成』早稲田
大学出版部/八岩まどか著『温泉と日本人』青弓社/川島武宣著『温泉
権』岩波書店/白水晴雄著『温泉のはなし』技法堂出版/クリチェク著
『世界温泉文化史』国文社/日本温泉協会温泉研究会編『温泉必携』日本
温泉協会/大島良雄・矢野良一共著『温泉療養の指針』日本温泉協会/
山村順次著『日本の温泉地——その発達・現状とあり方』日本温泉協会
/大石真人著『温泉の文化誌』丸善/八岩まどか『温泉と共同湯』青弓
社/種村季弘・池内紀『温泉百話』ちくま文庫/山口瞳『温泉へ行こう』
新潮文庫/田山花袋『日本温泉めぐり』角川ランティエ叢書

70. 坐る・歩く

山折哲雄『「坐」の文化論』講談社学術文庫/田村憲美「中世肖像画にお
ける「坐」の問題」〔黒田日出男編『肖像画を読む』角川書店〕/野中涼
『歩く文化 座る文化——比較文学論——』早稲田大学出版部/葛綿正一
「平安期文学における身体の主題——足と沓をめぐる——」〔『日本文
学』1994年6月〕/飯田善國「歩く」〔『へるめす』1987年第10号〕/安
居香山『正坐の文化』五月書房/熊倉功夫『茶の湯——わび茶の心とか
たち』教育社

71. 地獄・極楽

『源信 日本の名著 4』中央公論社／『国文学解釈と鑑賞』——地獄・
極楽の案内——1990年8月号

*タコ壺から脱出を！ 記号学・言語学・コミュニケーション論・文化人類学・マル
キシズム・精神分析学を駆使して考察すること。

監修 山口昌男
作成 高橋康雄